

「第5次岡谷市環境基本計画」・「第2次岡谷市地球
温暖化対策実行計画」市民アンケート
調査結果報告書

令和6年7月

岡 谷 市

目 次

第1章 調査の目的と概要	1
1 調査目的	1
2 調査概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査方法	1
(4) 設問内容	1
(5) アンケート回収状況	2
3 調査スケジュール	2
第2章 調査結果	3
1 市民アンケート調査結果	3
(1) 調査概要	3
(2) アンケート結果	3
2 事業者アンケート調査結果	20
(1) 調査概要	20
(2) アンケート結果	20
3 小中学生アンケート調査結果	38
(1) 調査概要	38
(2) アンケート結果	38

第1章 調査の目的と概要

1 調査目的

本市民アンケート調査は、市民、事業者、小中学生を対象に、市内の自然環境に対する評価、関心度、環境保全への取り組み、望ましい環境施策などについてアンケート調査を実施しました。本調査の目的は、市民や事業者が取り組む環境活動の実態や課題を正確に把握・分析し、「第5次岡谷市環境基本計画」の策定および「第2次岡谷市地球温暖化対策実行計画」の見直しに資する基礎資料とすることです。

また、前回の調査（令和元年度）から、地球環境や環境に対する世界情勢が大きく変化し、市民の環境意識も変化していると考えられることから新たな設問項目を追加し、これにより、今後の環境施策に反映できるよう、より詳細な現状把握を目指したものです。

2 調査概要

（1）調査対象

①市民アンケート

市内 18 歳以上の市民 1,000 人を対象に無作為抽出

②事業者アンケート

市内事業者 300 社

③市内小中学生アンケート

小中学生 713 人

（2）調査期間

令和 6 年 6 月 3 日（月）～令和 6 年 6 月 28 日（金）

（3）調査方法

郵送配布、郵送回収または web 回答

（4）設問内容

○現在の環境に対してどう感じているか

- ・現在の市全体の自然環境について
- ・特に関心がある環境問題
- ・次世代に残したい自然環境について
- ・環境保全のために普段、取り組んでいること

○ゼロカーボンシティの推進について

- ・ゼロカーボンシティ宣言の認知度
- ・カーボンニュートラルの認知度
- ・環境に配慮した設備の設置有無

○環境への取り組みについて

- ・環境を良くするために岡谷市が優先的に取り組むべきこと
- ・将来、岡谷市がどのような環境のまちになることを望むか等

(5) アンケート回収状況

アンケートの回収状況は下記のとおり。前回の市民アンケート時（令和元年度）に比べ、市民と事業者では、回収率が大幅に増え環境に対する意識の高まりがうかがえる。

① 回答数

	市 民	事業者	小中学生	合 計
調査対象	1,000	300	713	2,013
回答者数	624	201	553	1,403
回 収 率	62.4%	67.0%	77.6%	—
前回の回収率	33.9%	56.3%	92.8%	—
増 減	+28.5%	+10.7%	△15.2%	—

② 回答状況（郵送回答・WEB）

	市 民	事業者	合 計
回答数	624	201	825
郵送回答	467 (76%)	151 (76%)	467 (76%)
WEB	146 (24%)	47 (24%)	146 (24%)

3 調査スケジュール

アンケート調査のスケジュールについては以下のとおり。

事業項目	5 月	6 月	7 月
アンケート項目作成・準備	→		
アンケート調査実施		→	
アンケート結果入力・集計・分析		→	
調査結果報告書の作成			→
業務打ち合わせ		随時	随時

第2章 調査結果

1 市民アンケート調査結果

(1) 調査概要

調査対象先	18 歳以上の市民 1,000 人（無作為抽出）
回答者数	624 名
回収率	62.4%

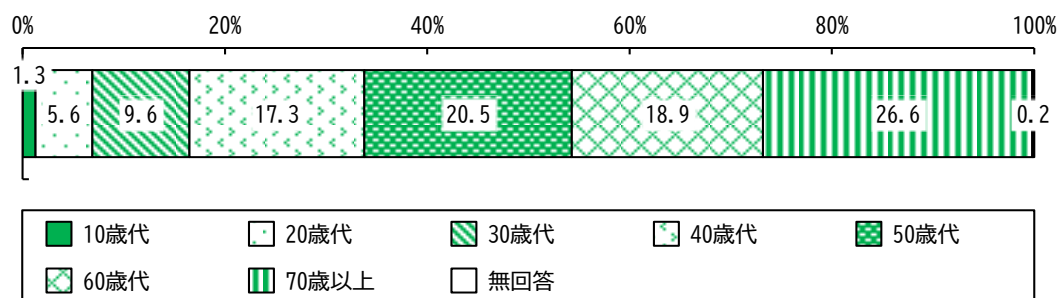
(2) アンケート結果

1) 回答者自身について

1. 年齢

問1 年齢（年代）を教えてください。（○はひとつ）

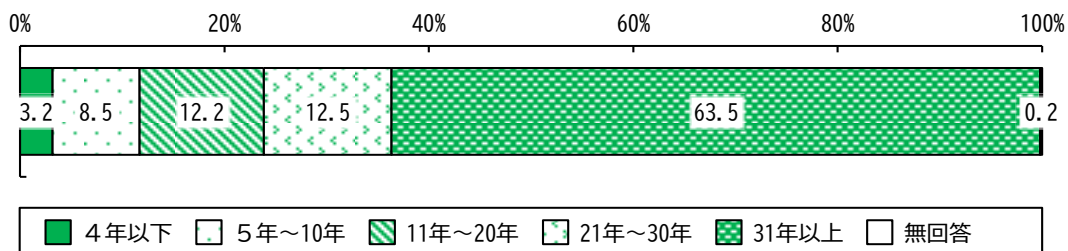
n=624



2. 居住年数

問2 岡谷市での居住年数を教えてください。（○はひとつ）

n=624

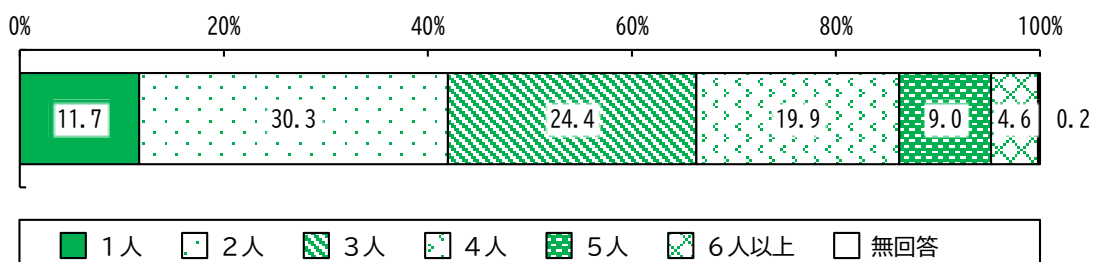


約8割が「21年以上」の居住年数で、長く居住している世帯が多い。

3. 世帯人数

問3 世帯人数を教えてください。（○はひとつ）

n=624

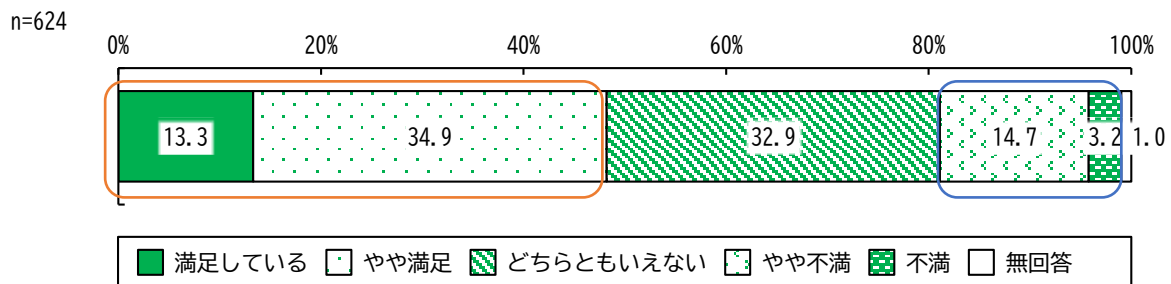


令和6年6月の長野県の平均世帯人数は2.33人、岡谷市は2.36人（長野県毎月人口異動調査）でほぼ同じである。

2) 環境に関して

1. 岡谷市全体の環境について、どのように感じているか

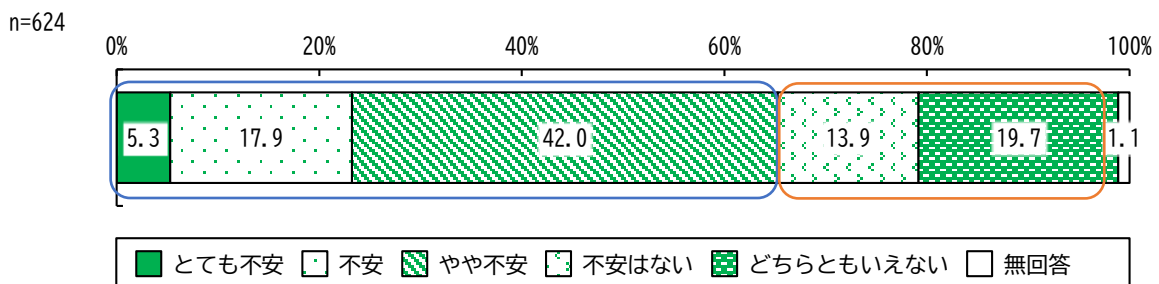
問4 岡谷市全体の環境（自然環境、生活環境等）について、どのように感じていますか。（○はひとつ）



岡谷市全体の環境についてどのように感じているかでは、「満足している」と「やや満足」を合わせた『満足』は48.2%、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は17.9%となっている。約半数は、現在の岡谷市の環境に対して満足しているものの、不満をもっている人も一定数いる。

2. 将来の岡谷市全体の環境に対して不安はあるか

問5 将来の岡谷市全体の環境に対して不安はありますか。（○は1つまで）

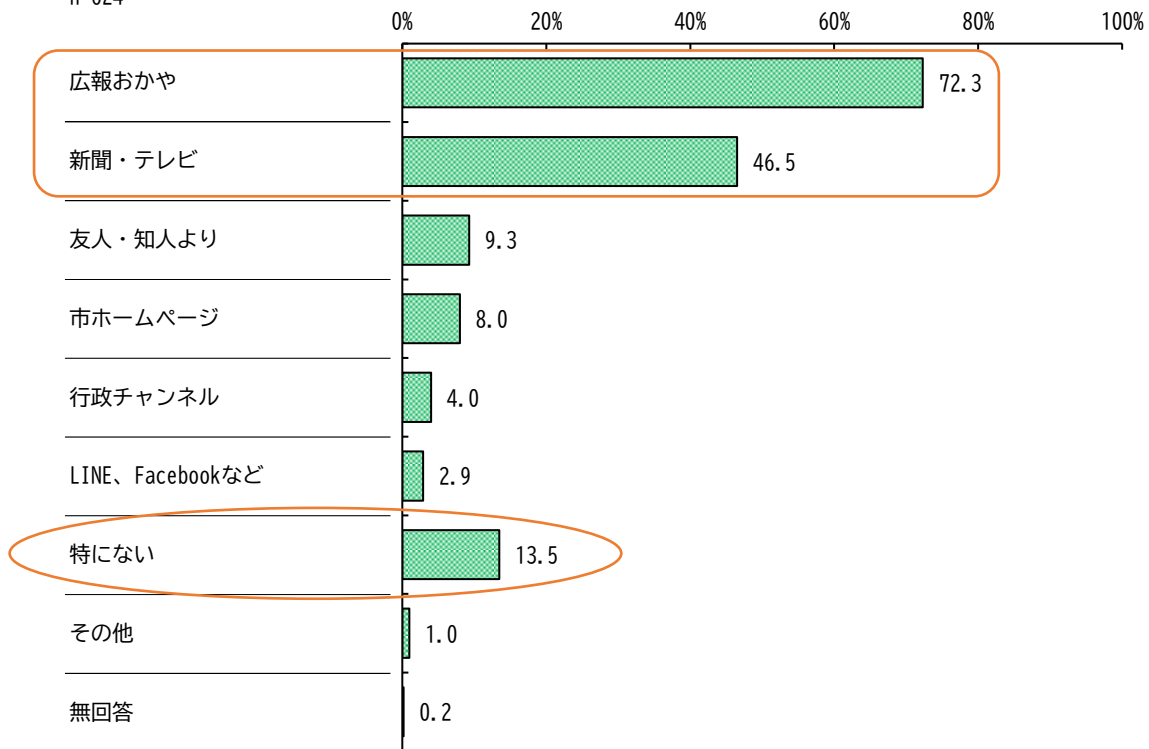


将来の岡谷市全体の環境に対して不安はあるかでは、「とても不安」、「不安」、「やや不安」を合わせた『不安』は65.2%と高く、現在の環境には満足しているものの将来の環境に対して不安に思う人が多い。

3. 市の環境情報の入手先

問6 市の環境情報をどこから入手していますか。(〇は2つまで)

n=624

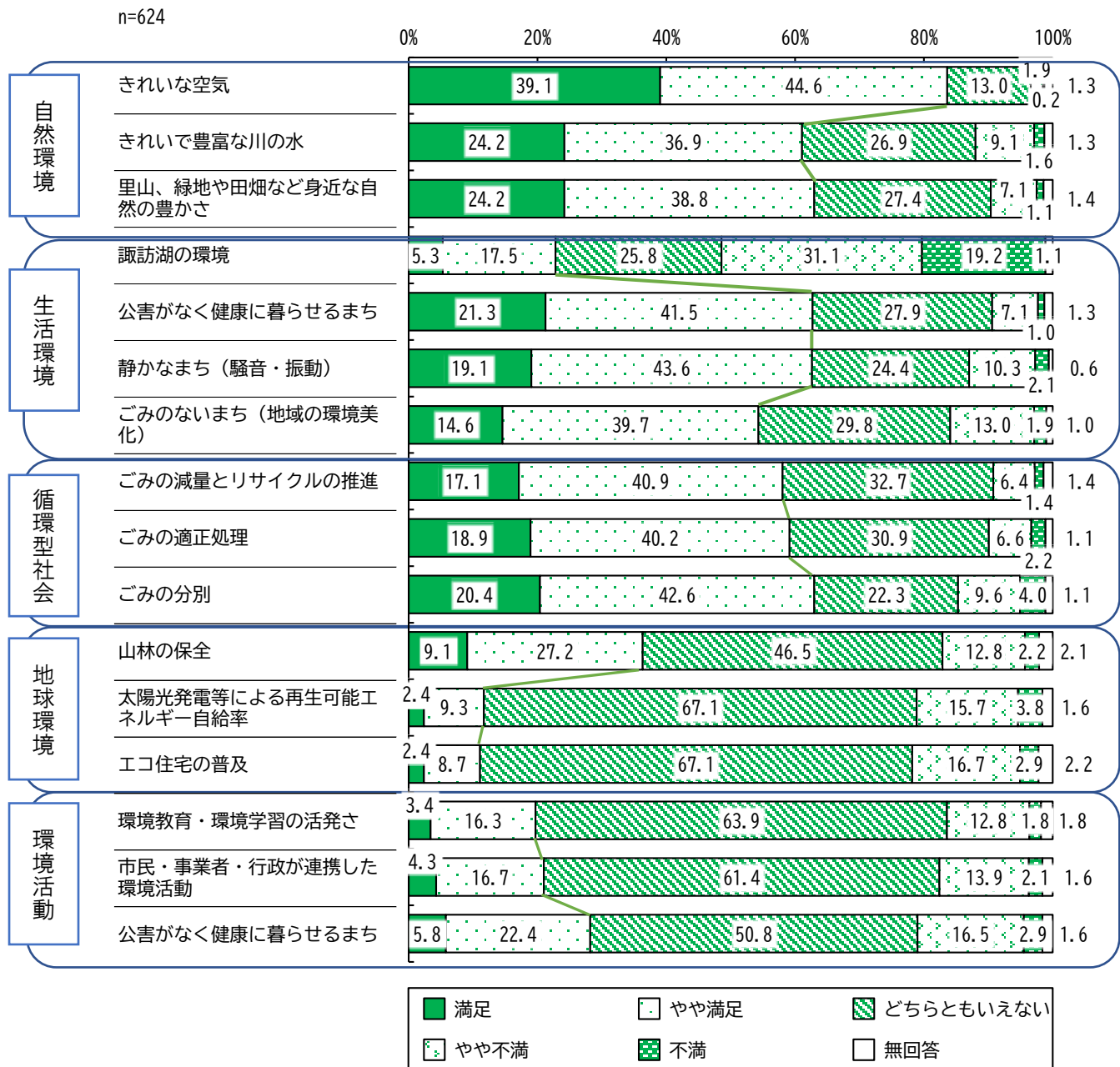


市の環境情報の入手先は「広報おかや」が72.3%、「新聞・テレビ」が46.5%、「友人・知人より」が9.3%などとなっている。「特にない」は13.5%となっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「広報おかや」（前回78.5%、今回72.3%）が最も多く、次いで「新聞・テレビ」（前回45.1%、今回46.5%）となっている。

4. 現在の市全体の環境についてどのように感じているか

問7 現在の市全体の環境についてどのように感じていますか。
満足度を教えてください。（各項目へ〇はひとつずつ）



現在の市全体の環境については、「岡谷市環境基本計画」の基本目標と施策体系として5つの項目について満足度を聞いた。「自然環境」「生活環境」「循環型社会」についてはおおむね満足はしているものの、「地球環境」と「環境活動」については満足度が極端に低くなっている。

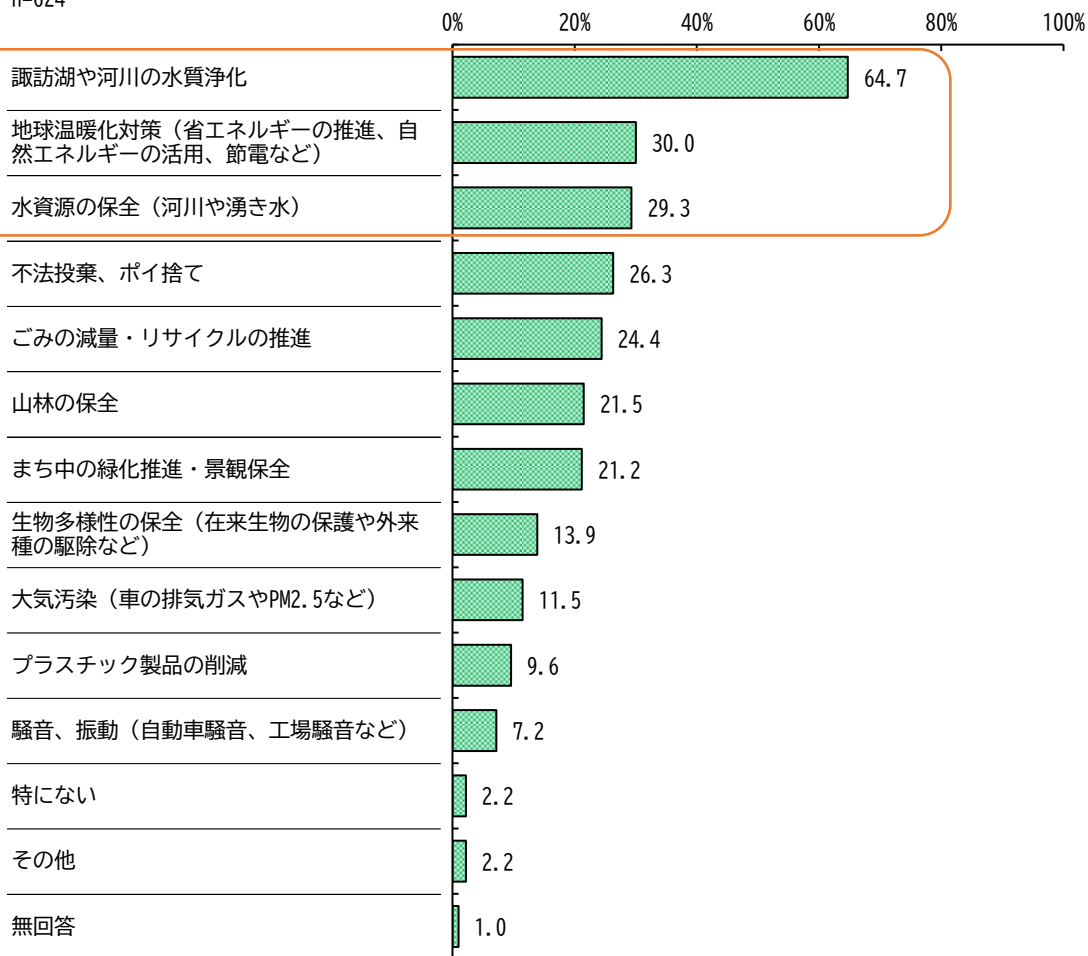
「満足」「やや満足」を合わせた満足度をみると、『きれいな空気』が83.7%と最も高く、次いで約63%で『ごみの分別』『公害がなく健康に暮らせるまち』『静かなまち（騒音・振動）』となっている。しかし、『諏訪湖の環境』では「やや不満」と「不満」を合わせた「不満」が50.3%と他の項目より不満が高くなっており、身近な生活環境として諏訪湖に関心があるものの、諏訪湖の透明度やヒシの繁茂などが目に見えて分かるため満足度が低くなったと思われる。

前回調査（令和元年度）と比較すると、『ごみのないまち』で「満足」（前回5.3%、今回14.6%）、「やや満足」（前回26.8%、今回39.7%）が前回より高くなっている（前回の質問文は『ポイ捨て・不法投棄のないまち』）。

5. 身のまわりの環境問題で、特に関心があるもの

問 8 身のまわりの環境問題で、特に関心があるものは何ですか。（○は2つまで）

n=624



身のまわりの環境問題で、特に関心があるものは「諏訪湖や河川の水質浄化」が 64.7%、「地球温暖化対策（省エネルギーの推進、自然エネルギーの活用、節電など）」が 30.0%、「水資源の保全（河川や湧き水）」が 29.3%などとなっている。

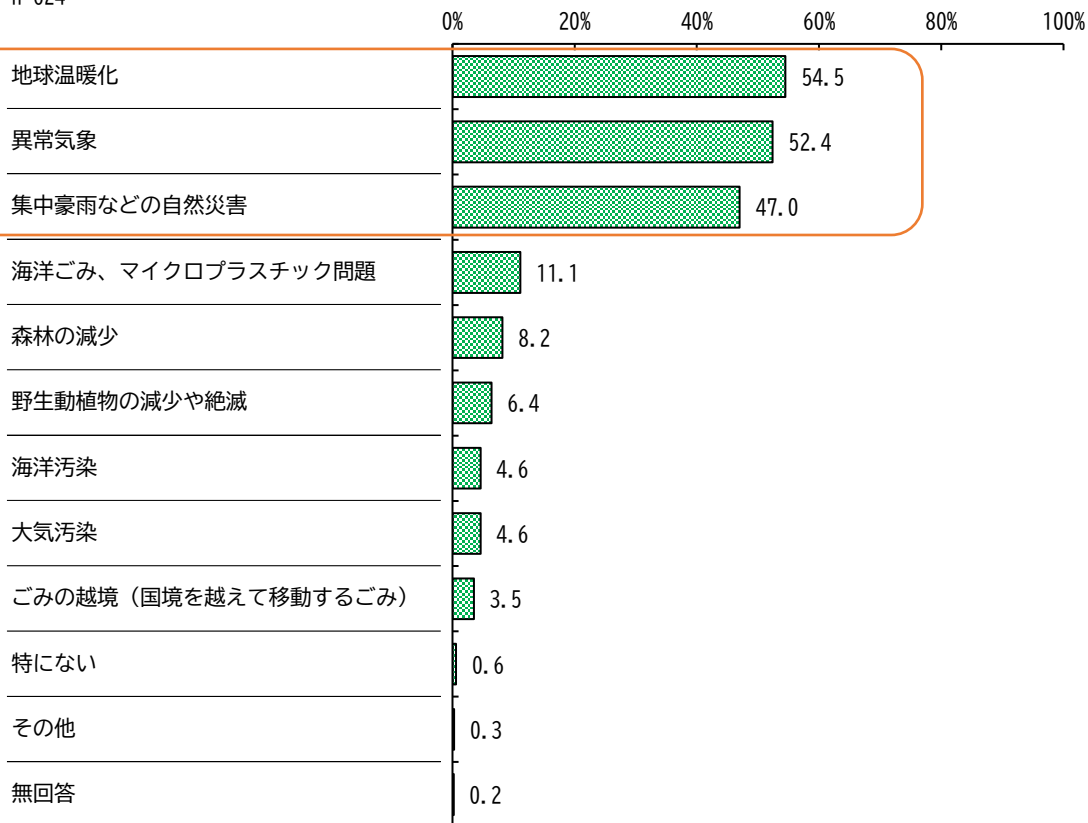
前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「諏訪湖や河川の水質浄化」（前回 60.8%、今回 64.7%）が最も高くなっている。諏訪湖の環境は満足度が低いものの、身近な環境であるため関心は高くなったと思われる。

前回調査で次に高いものは、「プラスチック製品（レジ袋など）の削減」で 27.1%だったが、今回調査では、同じような項目（「プラスチック製品の削減」）は 9.6%で 10 位となっている。その他プラスチックは、資源物の分別収集が進み、サンデーリサイクルデーにおいて硬質プラスチックの資源回収を行うなど、リサイクルが進んだことにより関心が低くなったものと思われる。

6. 地球規模の環境問題で、特に関心があるもの

問9 地球規模の環境問題で、特に関心があるものは何ですか。(○は2つまで)

n=624



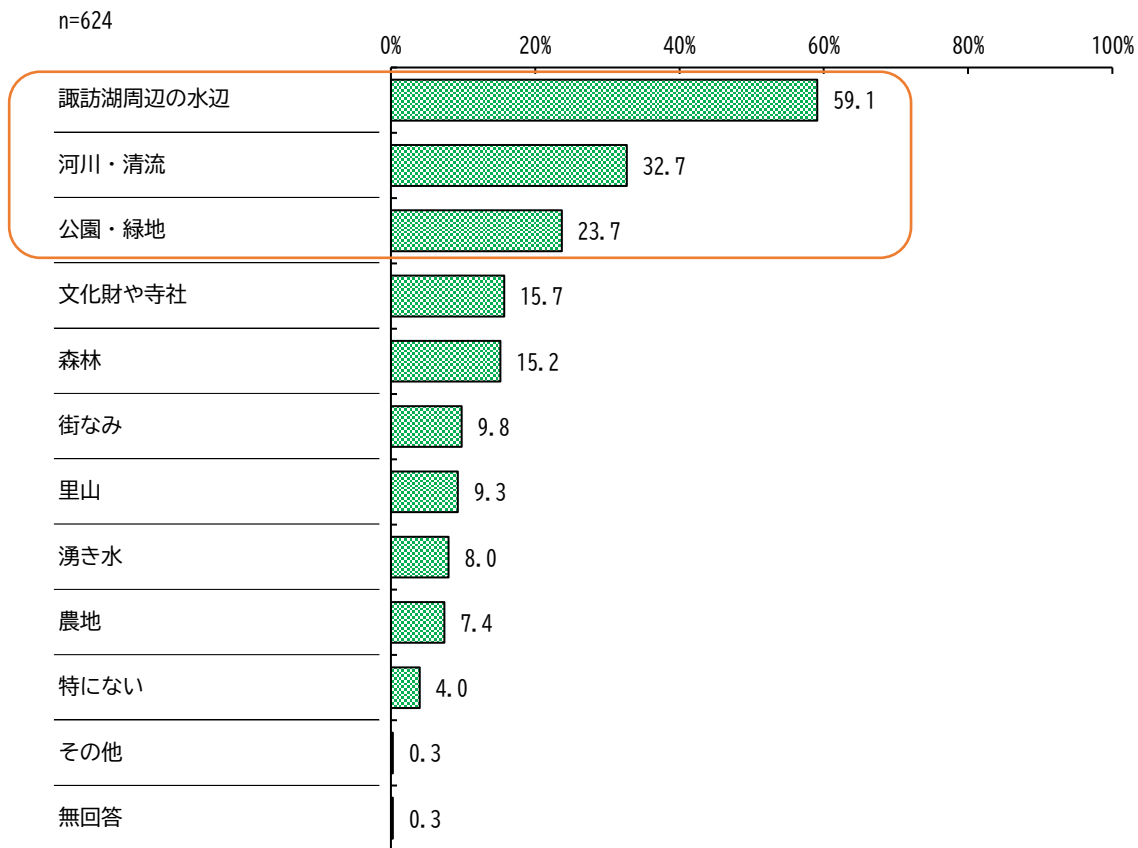
地球規模の環境問題で、特に関心があるものは「地球温暖化」が 54.5%、「異常気象」が 52.4%、「集中豪雨などの自然災害」が 47.0%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「地球温暖化」（前回 62.8%、今回 54.5%）が最も高く、次いで「異常気象（前回調査では「異常気象（猛暑、ゲリラ豪雨など）」）」（前回 50.1%、今回 52.4%）となっている。

また、令和6年度に長野県環境保全協会と長野県世論調査協会が実施した「環境とくらし 2024」の長野県民に対して実施したアンケートについても（以下「県保全協会アンケート」）、地球環境問題で一番関心があるものが「地球温暖化・異常気象・気候変動」で 80.0%と関心の高さがあり、今回の市民アンケートと同様の結果となった。

7. 次世代に残したいと思う市全体の環境

問 10 次世代に残したいと思う市全体の環境は何ですか。(○は2つまで)

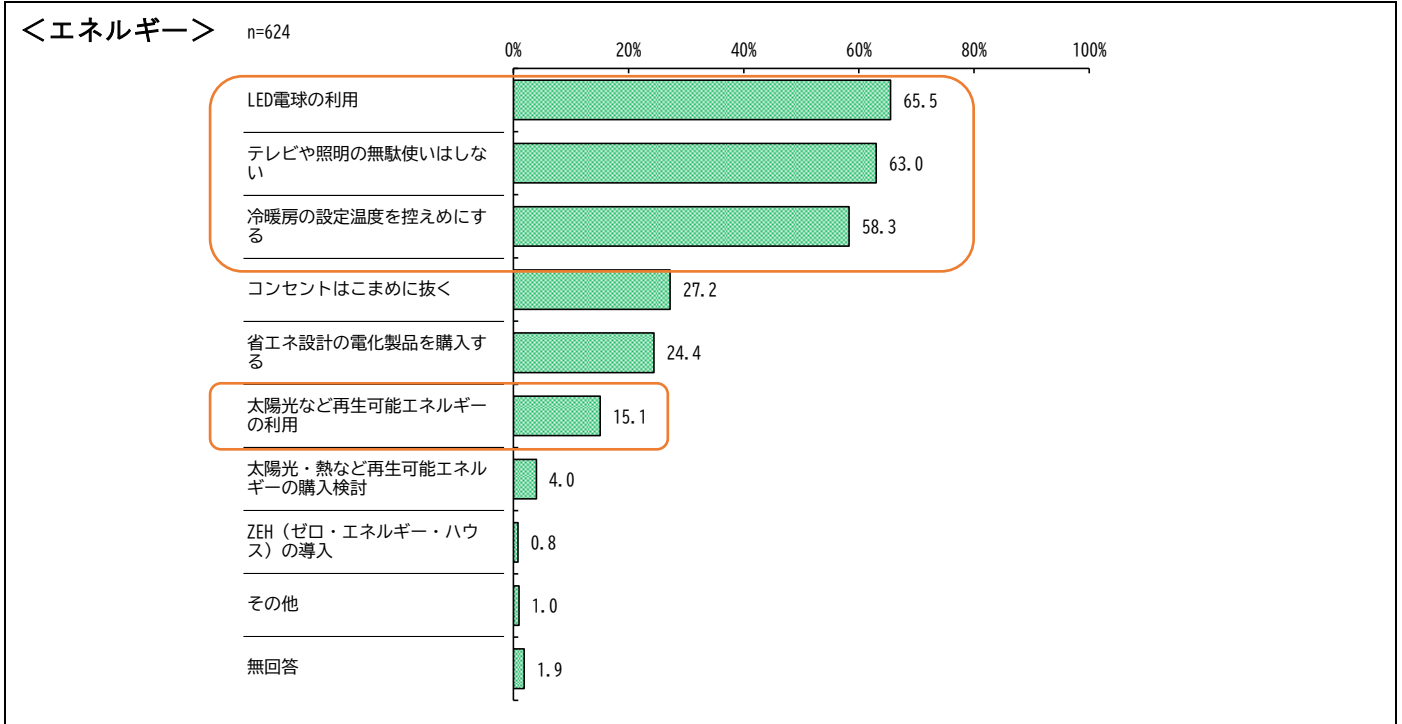


次世代に残したいと思う市全体の環境は「諏訪湖周辺の水辺」が 59.1%、「河川・清流」が 32.7%、「公園・緑地」が 23.7%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「諏訪湖周辺の水辺」（前回 64.9%、今回 59.1%）が最も高く、次いで「河川・清流」（前回 36.6%、今回 32.7%）となっている。身の回りの環境問題でも諏訪湖への関心は高く、市民にとって諏訪湖はかけがえのない存在であることが背景にあると思われる。

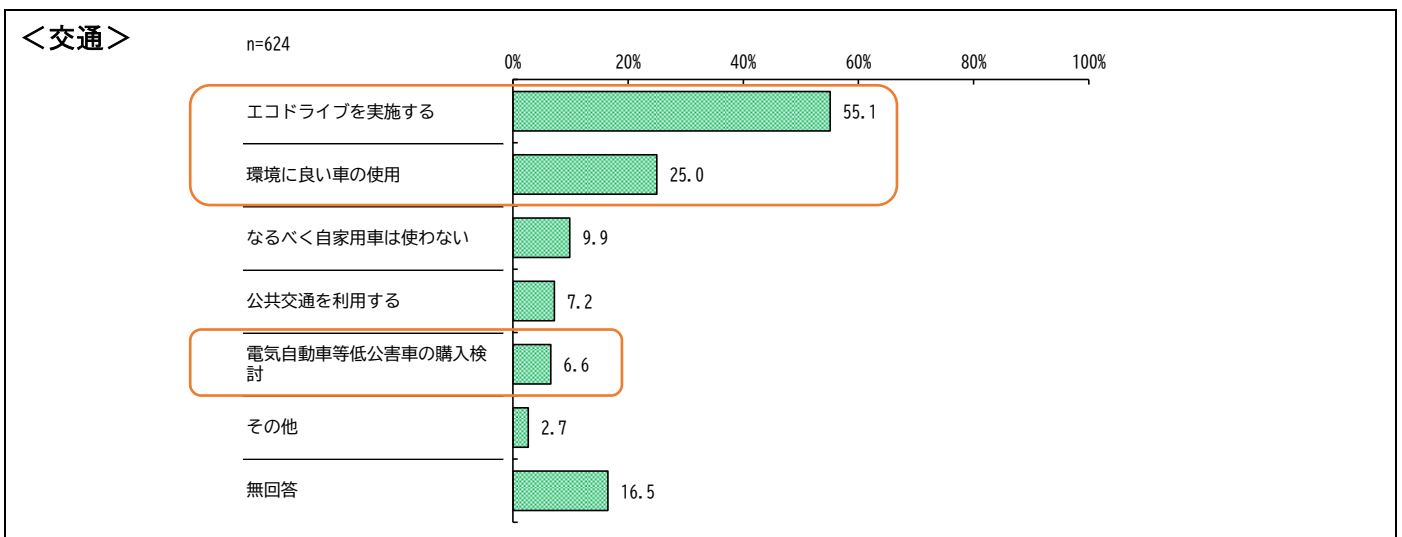
8. 環境保全のために普段どんなことに取り組んでいるか

問 11 環境保全のために普段どんなことに取り組んでいますか。(〇はいくつでも)



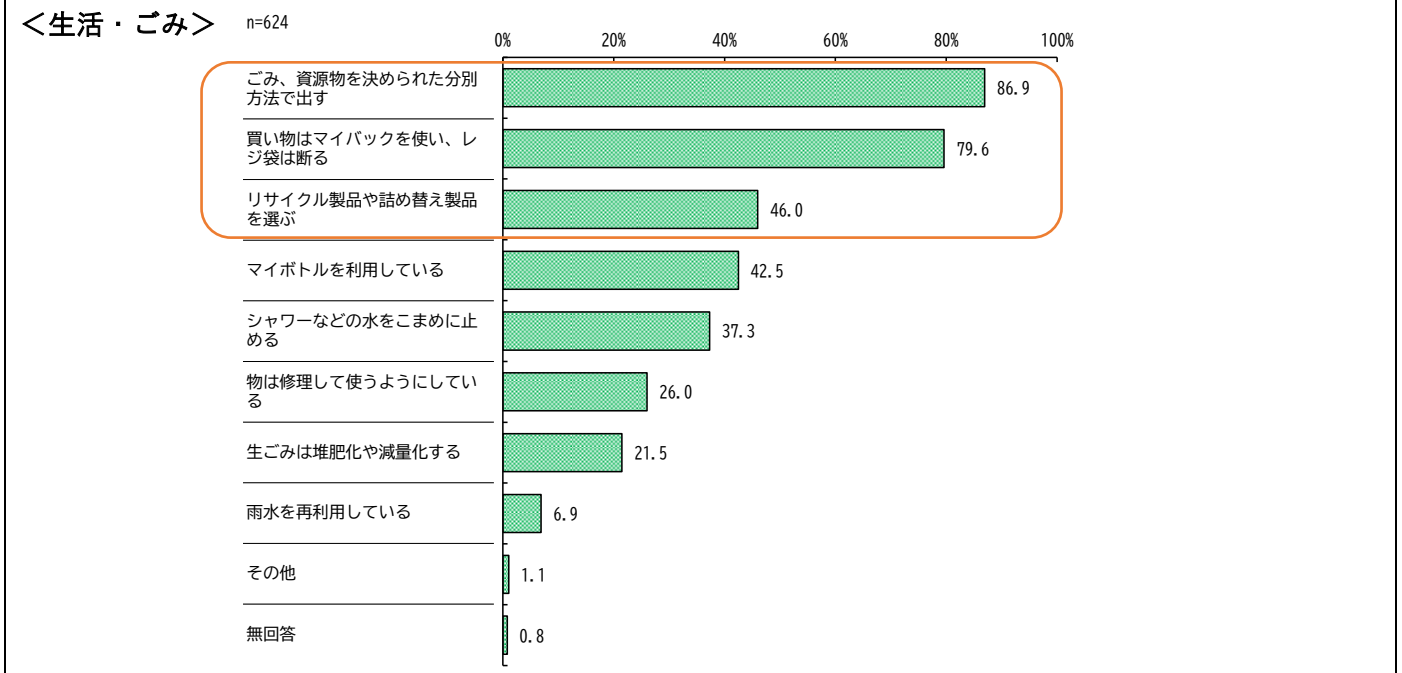
環境保全のために普段どんなことに取り組んでいるかでは、エネルギーについては「LED 電球の利用」が 65.5%、「テレビや照明の無駄使いはしない」が 63.0%、「冷暖房の設定温度を控えるにする」が 58.3%などとなっており、省エネ対策の取り組みが一般的となっている。

太陽光など再生可能エネルギーの利用率は 15.1%で、令和 3 年度末時点の太陽光発電システム導入世帯の割合は全国で 6.3%、関東甲信地方が 4.4%である。これは岡谷市の補助制度（H15～26）の導入件数 926 件という実績から、全国及び関東甲信地方と比較して導入率が高くなっていると思われる（環境省「令和 3 年度家庭部門の CO2 排出実態統計調査 資料編（確報値）」）。

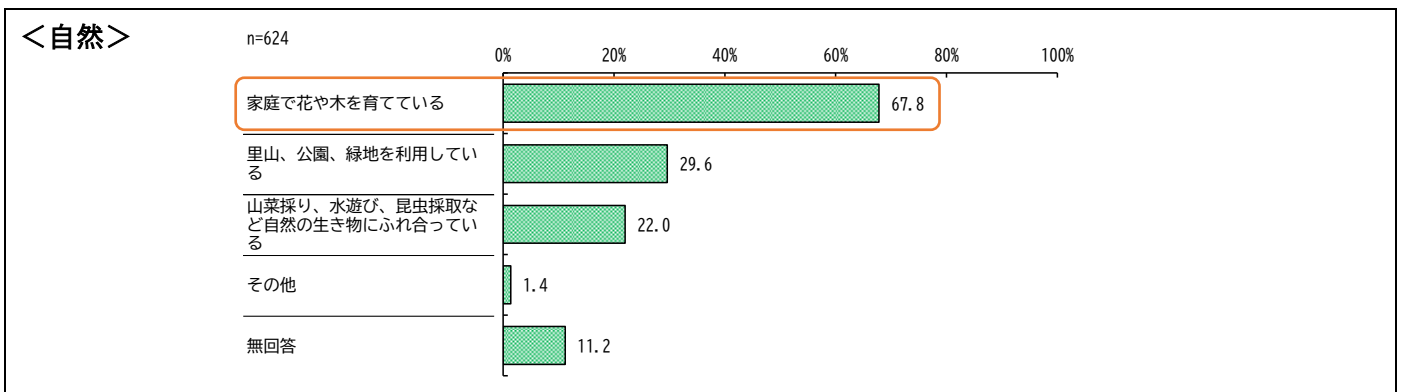


交通については、「エコドライブを実施する」が 55.1%で、約半数の市民が実践している。環境への負荷を減らし、経済的なメリットもあり、個人レベルで取り組みが出来ることが理由と思われる。

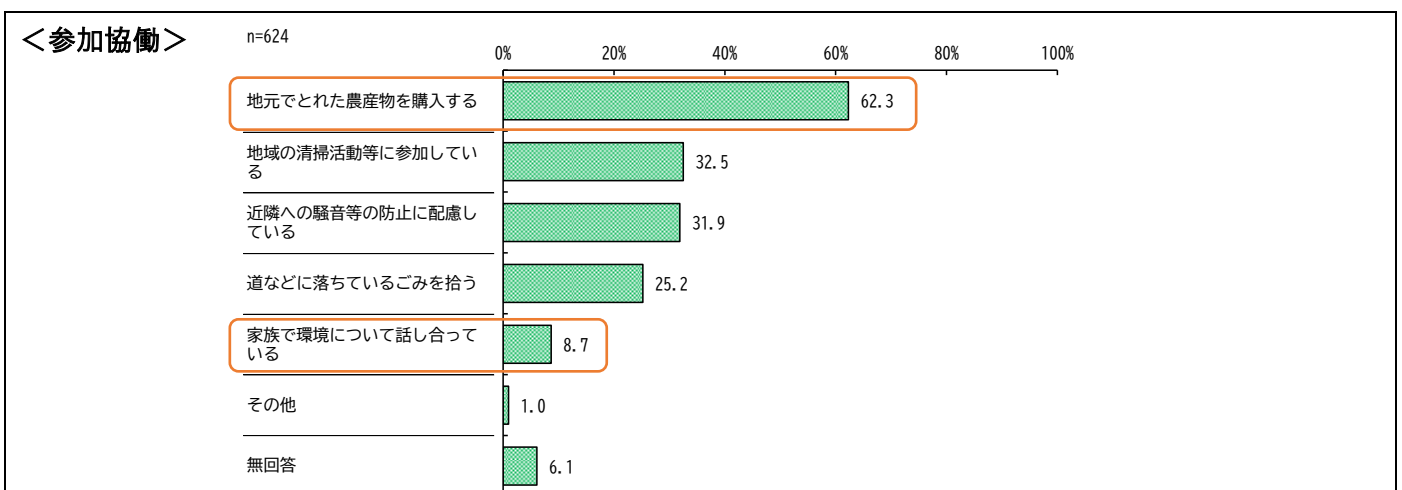
「環境に良い車の使用」が 25.0%などとなっており、一般的に購入時の初期費用は高くなる傾向にあるがランニングコストなどを考慮するとメリットもあることから使用されていると思われる。なお、電気自動車等低公害車の購入検討を考える人も一定数いる。



生活・ごみについては「ごみ、資源物を決められた分別方法で出す」が 86.9%、「買い物はマイバックを使い、レジ袋は断る」が 79.6%などとなっており、上位の 3 つは前回調査（令和元年度）と同様の結果となっている。



自然については「家庭で花や木を育てている」が 67.8%などとなっており、身近なところで大気浄化や生物多様性の保全につながっている。前回調査（令和元年度）と同様の結果となっている。

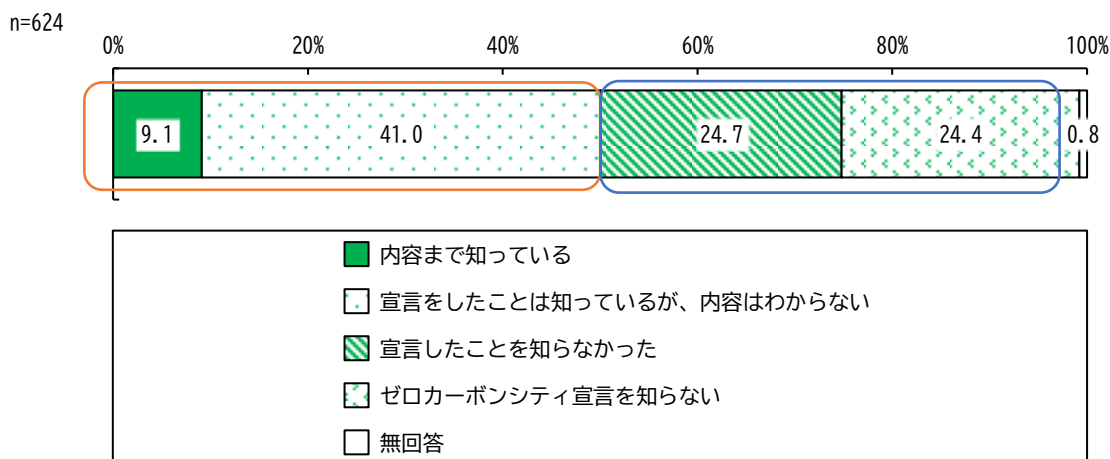


参加協働については「地元でとれた農産物を購入する」が 62.3%などとなっている。また、家族で環境について話し合うことは、知識を共有するだけでなく様々な面で大きな意味があると考えられる。

3) ゼロカーボンの推進について

1. 岡谷市がゼロカーボンシティ宣言をしていることを、知っているか

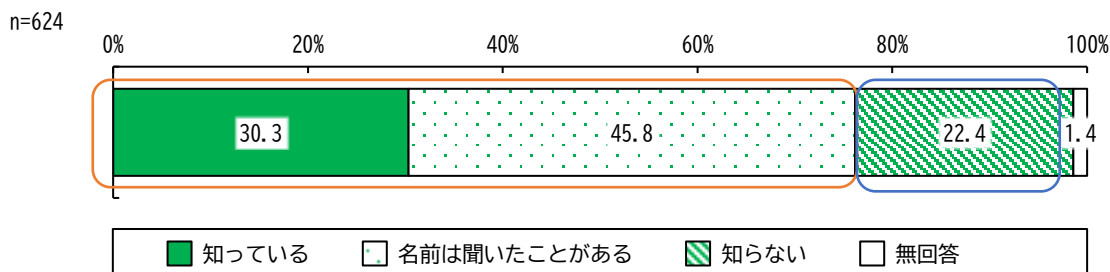
問 12 岡谷市がゼロカーボンシティ宣言をしていることを、知っていますか。(○はひとつ)



岡谷市がゼロカーボンシティ宣言をしていることを知っている市民は半数のみで、まだ市民に定着していないため今後更に周知していく必要がある。クロス集計の結果では、60代以上の約6割以上は宣言していることを知っていたが、年齢が若くなるにつれて認知度が低くなっている。

2. カーボンニュートラルとは、どんなことが知っているか

問 13 カーボンニュートラルとは、どんなことが知っていますか。(○はひとつ)

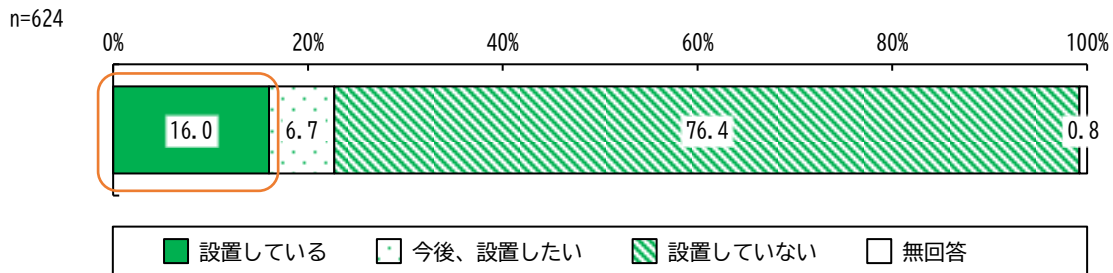


カーボンニュートラルとはどんなことが知っているかでは、「知っている」が30.3%、「名前は聞いたことがある」が45.8%、「知らない」が22.4%となっており全体の約7割は知っている。

2024年3月時点の調査(第13回カーボンニュートラルに関する生活者調査)によると、「カーボンニュートラル」という言葉の認知率は、全体で約6割となっていることから、岡谷市民の認知度は全国に比べ高くなっている。

3. 太陽光発電設備を設置しているか

問 14 太陽光発電設備を設置されていますか。(○はひとつ)



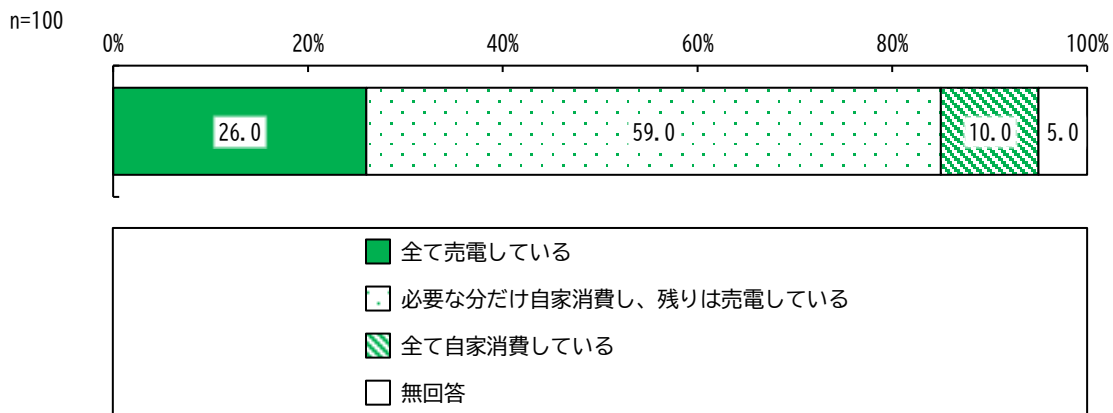
太陽光発電設備を設置しているかでは、「設置している」が 16.0%、「今後、設置したい」が 6.7%、「設置していない」が 76.4%となっている。前回調査（令和元年度）と比較すると、「設置している（前回調査では「設置（所有）している）」が前回 12.1%から今回 16.0%になり少しずつではあるが普及してきている。

令和 3 年度末時点の太陽光発電システム導入世帯の割合は全国で 6.3%、関東甲信地方が 4.4%に比べると設置率は高いが、「県保全協会アンケート」（令和 6 年度）では、「太陽光発電を導入している」が 19.2%となっており、県全体の割合より設置率が 3.2%低くなっている。これは、長野県の太陽光設備設置率が全国的に見ても高い水準にあるためである。

4. 太陽光発電設備で発電した電気はどのように使っているか

問 14-2 問 14 で「設置している」と回答した方のみお答えください。

発電した電気はどのように使っていますか。(○はひとつ)

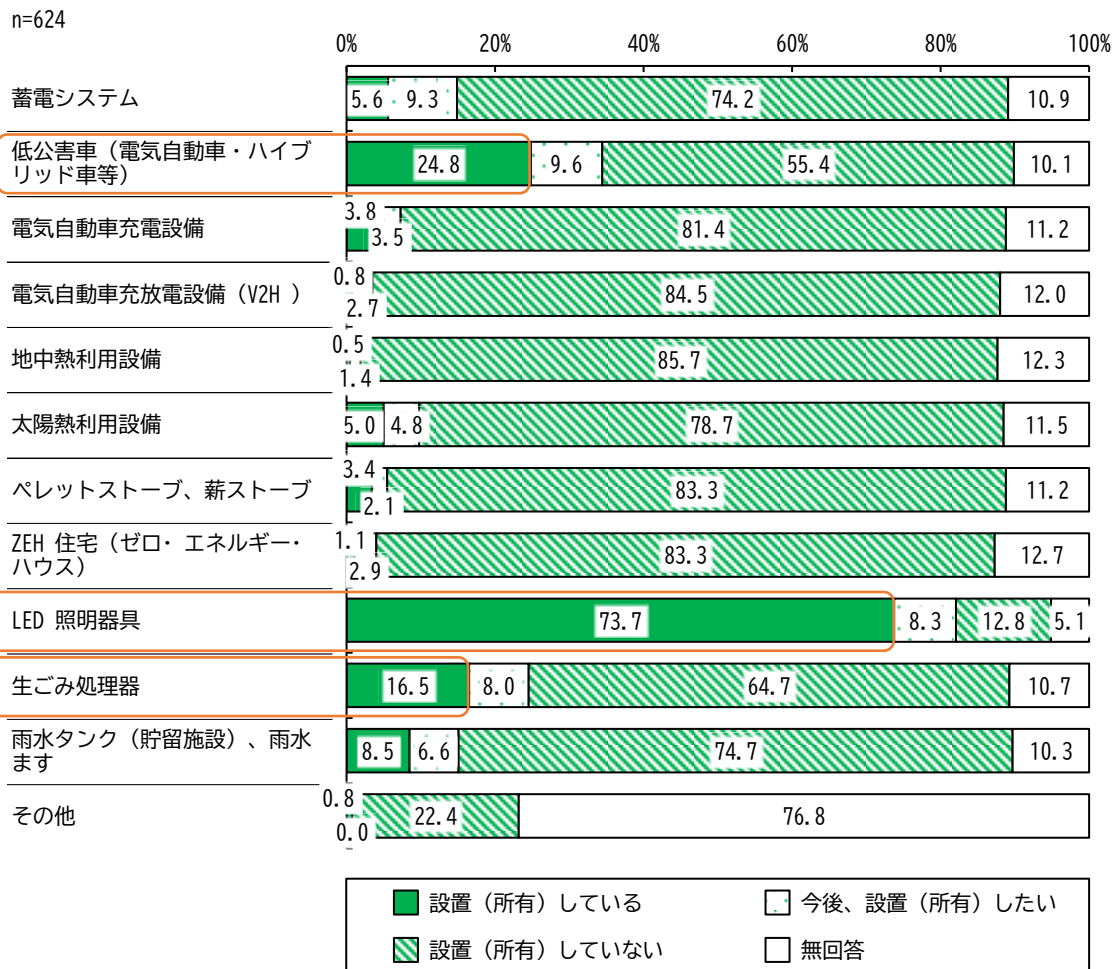


太陽光発電設備で発電した電気はどのように使っているかでは、「全て売電している」が 26.0%、「必要な分だけ自家消費し、残りは売電している」が 59.0%、「全て自家消費している」が 10.0%となっている。

多くの場合は、売電と自家消費を組み合わせるのが一般的ではあるが、固定価格買取制度（FIT）の買い取り期間は、太陽光発電システムの容量や設置時期によって異なるが一般的には 10 年間となっているため、今後は自家消費する世帯が増えると予想される。

5. 太陽光発電設備以外の再生可能エネルギー等環境に配慮した設備等を設置、所有しているか

問 15 太陽光発電設備以外の再生可能エネルギー等環境に配慮した設備等を設置、所有されていますか。（各項目へ○はひとつずつ）



太陽光発電設備以外の再生可能エネルギー等環境に配慮した設備等を設置、所有しているかでは、「設置（所有）している」についての上位は、「LED 照明器具」が 73.7%、「低公害車（電気自動車・ハイブリッド車等）」が 24.8%、「生ごみ処理器」が 16.5%などとなっている。

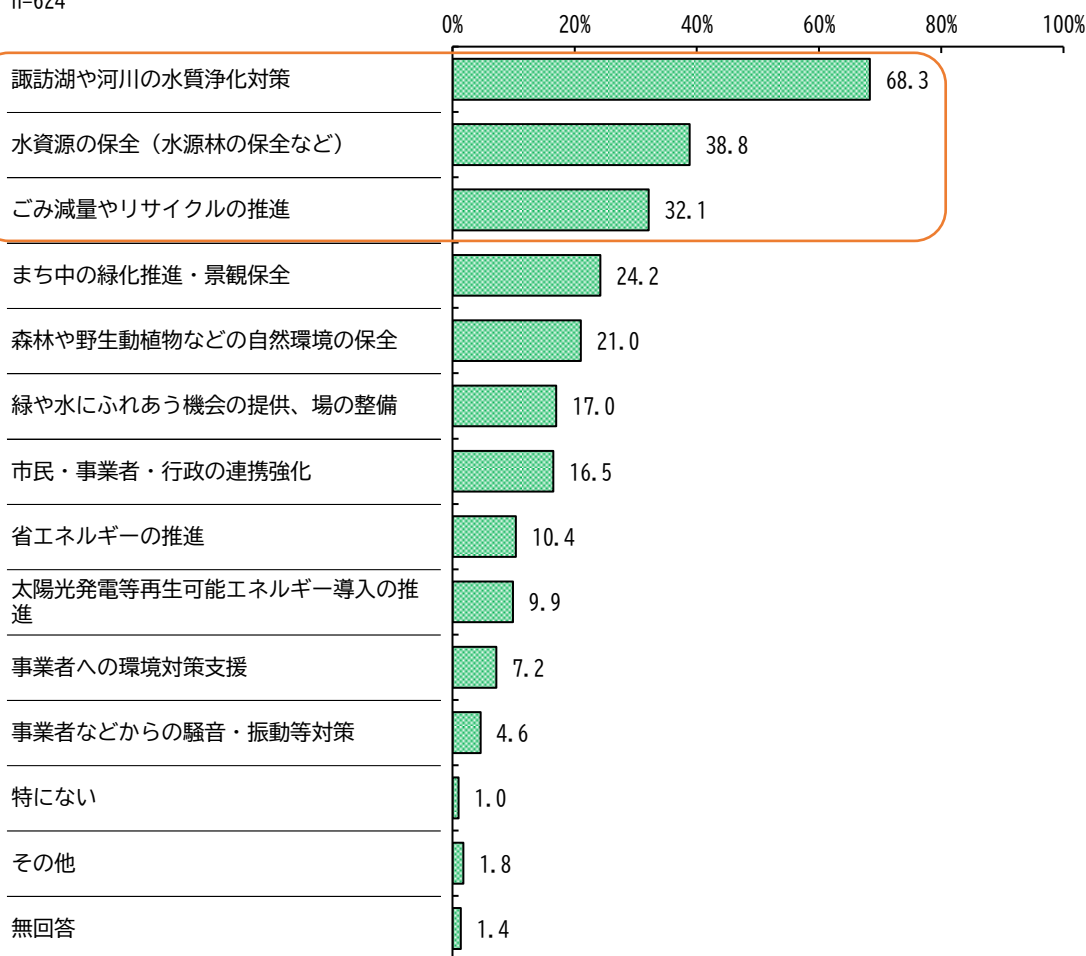
前回調査（令和元年度）と比較すると大きな差はみられないが、環境に配慮した設備として LED 照明器具の設置は普及している。

4) 環境への取り組みについて

1. 環境を良くするために岡谷市が優先的に取り組むべきと思うこと

問 16 環境を良くするために岡谷市が優先的に取り組むべきと思うことは何ですか。(○は2つまで)

n=624



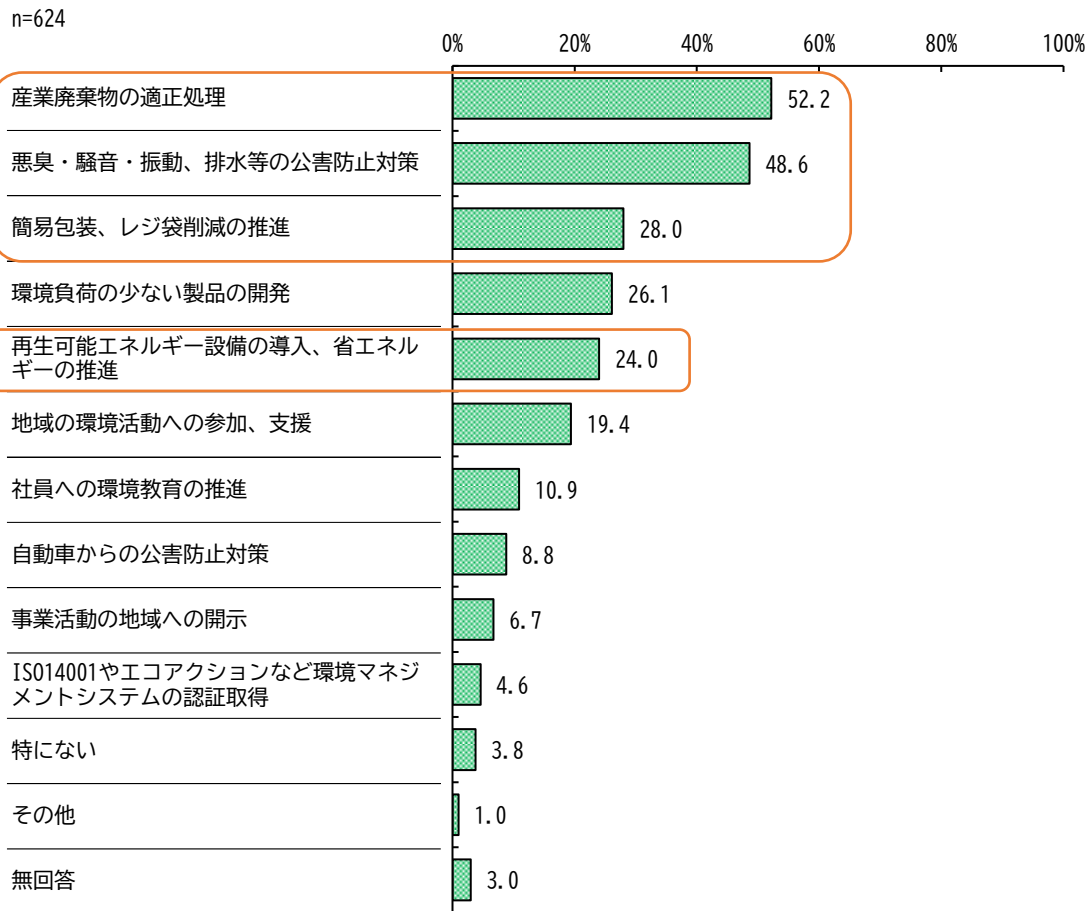
環境を良くするために市が優先的に取り組むべきと思うことでは、「諏訪湖や河川の水質浄化対策」が68.3%と関心がとても高く、次いで「水資源の保全 (水源林の保全など)」が38.8%、「ごみ減量やリサイクルの推進」が32.1%などとなっている。

前回調査 (令和元年度) と比較すると、どちらの調査でも「諏訪湖や河川の水質浄化対策」(前回 61.1%、今回 68.3%) が最も高く、水質浄化や保全に対して引き続き関心が高くなっている。

また、「ごみ減量や3Rの推進」は前回 22.4%だったが、今回調査では類似した項目である「ごみ減量やリサイクルの推進」が32.1%となっており、ごみ減量・リサイクルの推進は、環境問題等の解決に不可欠であり、市が率先して取り組むべき重要な施策になっている。

2. 環境を良くするために企業・事業者にどのようなことを望むか

問 17 環境を良くするために企業・事業者にどのようなことを望みますか。(○は2つまで)



環境を良くするために企業・事業者にどのようなことを望むかでは、岡谷市はものづくりの中小企業が多いことから、「産業廃棄物の適正処理」と「悪臭・騒音・振動、排水等の公害防止対策」が上位になったと思われる。

前回調査(令和元年度)と比較すると、どちらの調査でも「産業廃棄物の適正処理」(前回 38.9%、今回 52.2%)が最も高く、次いで「悪臭・騒音・振動、排水等の公害防止対策」(前回 38.1%、今回 48.6%)、「簡易包装、レジ袋削減の推進」(前回 26.3%、今回 28.0%)となっている。

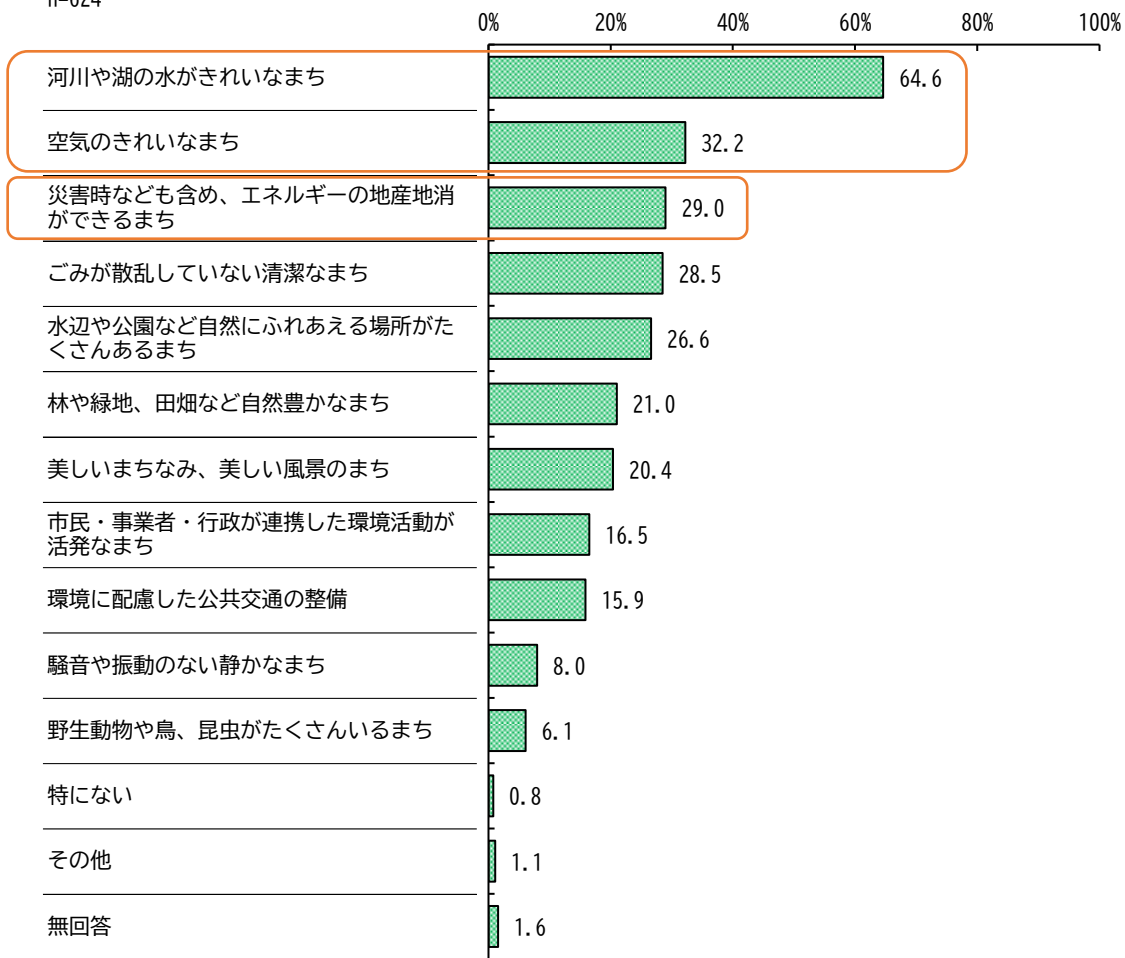
近年、地球温暖化など環境問題は深刻化しており、市民は企業・事業者に対して、環境問題への積極的な取り組みを求めている。

また、「再生可能エネルギー設備の導入、省エネルギーの推進」では24%となり、前回の10.9%から13.1%と大幅に上昇した。

3. 将来の岡谷市がどのような環境のまちになることを望むか

問 18 将来の岡谷市がどのような環境のまちになることを望みますか。(○は2つまで)

n=624



将来の岡谷市がどのような環境のまちになることを望むかでは、「河川や湖の水がきれいなまち」が 64.6%、「空気のきれいなまち」が 32.2%となっている。

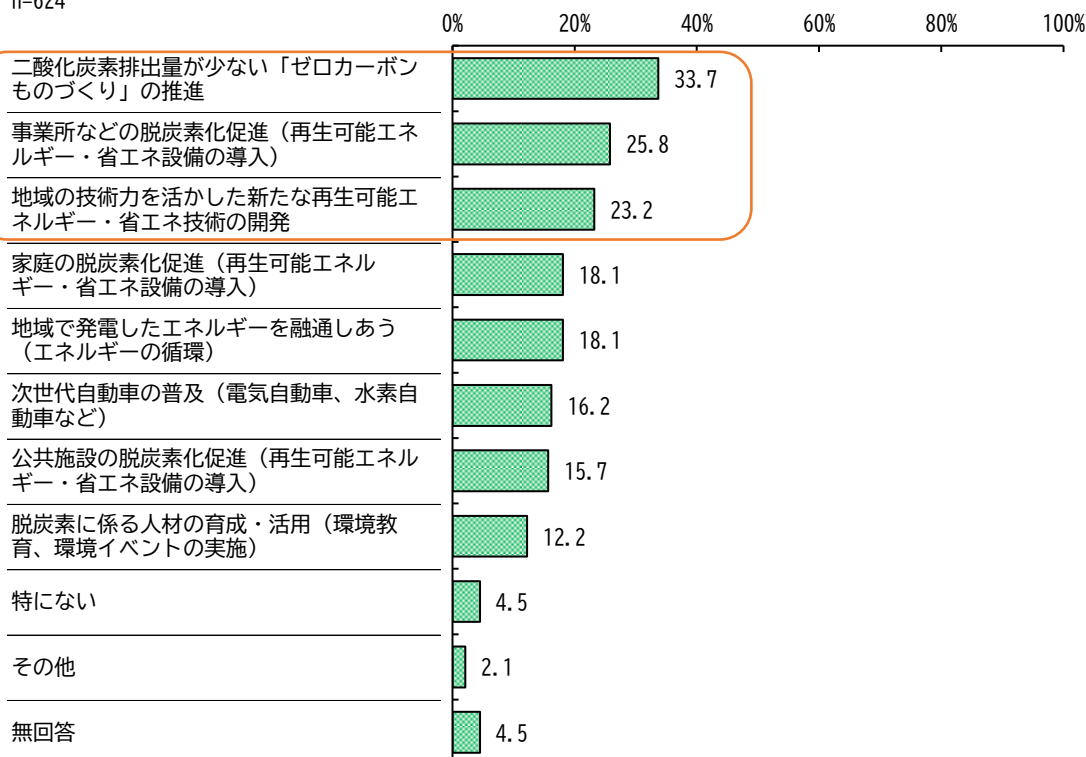
地球温暖化の影響もあり近年は自然災害が多発しているため、新たな項目として「災害時なども含め、エネルギーの地産地消ができるまち」を選択肢として追加したが、29.0%と関心の高い項目となった。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「河川や湖の水がきれいなまち（前回調査では「河川や湖の水のきれいなまち」）」（前回 45.7%、今回 64.6%）が最も高くなっている。

4. 二酸化炭素排出量を削減するためにどんなことが必要だと思うか

問 19 二酸化炭素排出量を削減するためにどんなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

n=624



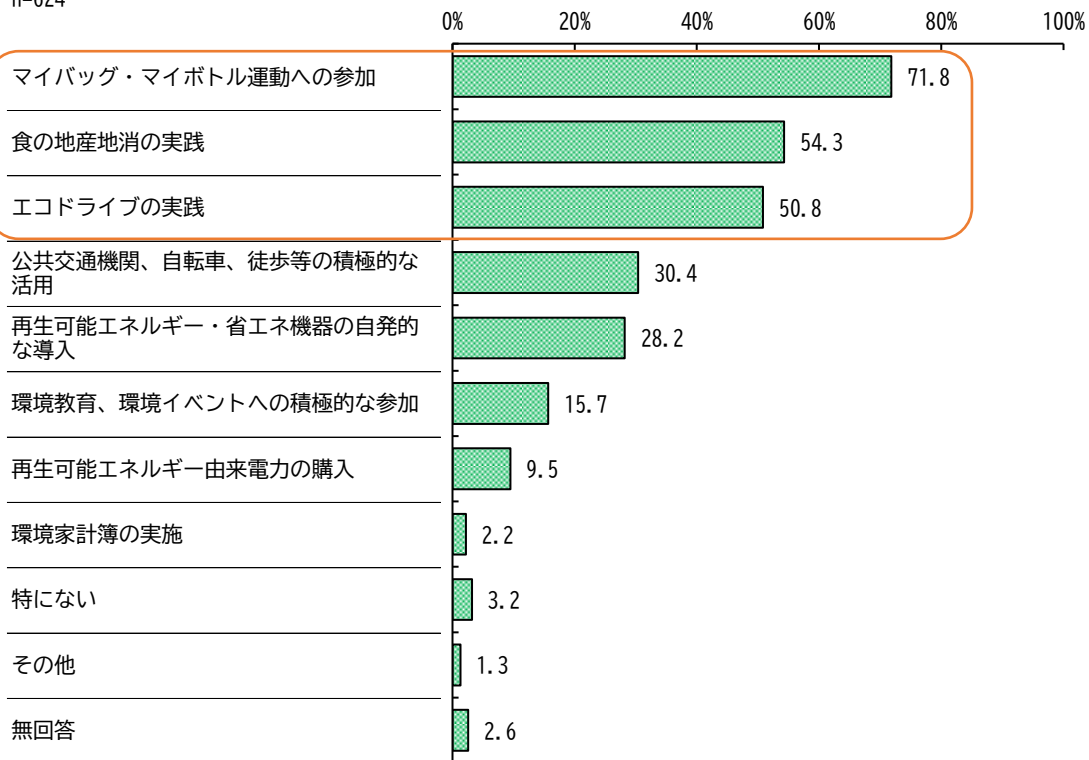
二酸化炭素排出量を削減するためにどんなことが必要だと思うかでは、「二酸化炭素排出量が少ない「ゼロカーボンものづくり」の推進」が 33.7%、「事業所などの脱炭素化促進（再生可能エネルギー・省エネ設備の導入）」が 25.8%、「地域の技術力を活かした新たな再生可能エネルギー・省エネ技術の開発」が 23.2%などとなっている。

事業者に対して、二酸化炭素排出量削減を求める回答が上位であったのは、地球環境問題への関心の高まりによるものと考えられる。

5. 今後どのようなことに取り組むことができるか

問 20 自分は、今後どのようなことに取り組むことができますか。(○はいくつでも)

n=624



今後どのようなことに取り組むことができるかでは、「マイバッグ・マイボトル運動への参加」が 71.8%、「食の地産地消の実践」が 54.3%、「エコドライブの実践」が 50.8%などとなっている。

2 事業者アンケート調査結果

(1) 調査概要

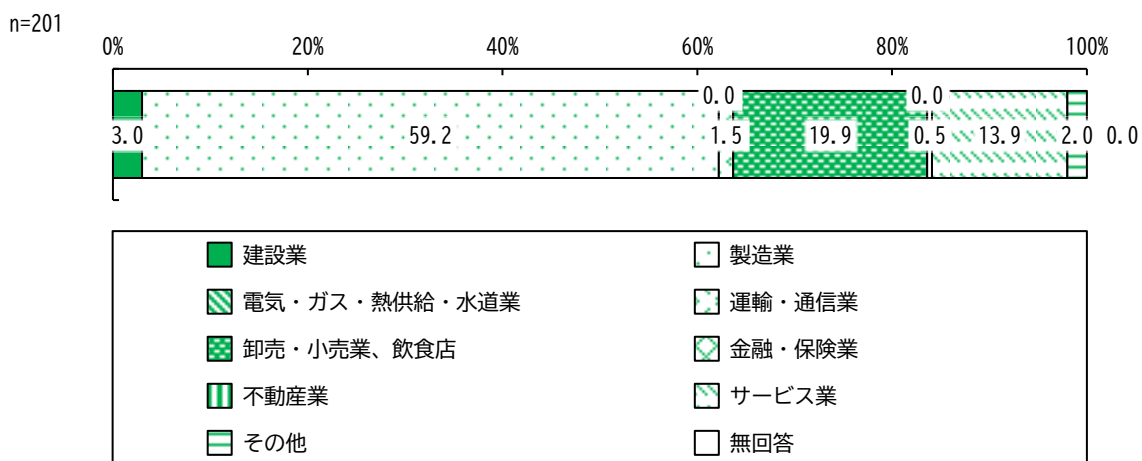
調査対象先	市内事業者 300 社
回答者数	201 社
回収率	67.0%

(2) アンケート結果

1) 事業所について

1. 業種

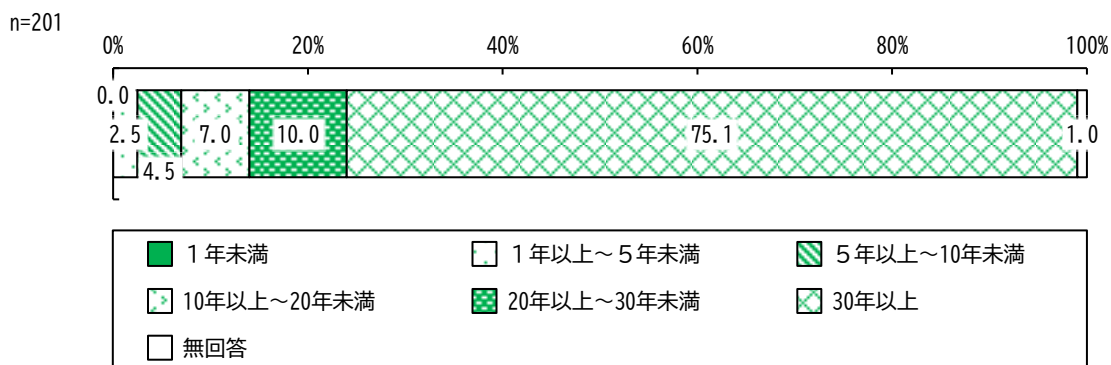
問1 業種を教えてください。(○はひとつ)



業種は「製造業」が 59.2%と半数以上を占め、以下「卸売・小売業、飲食店」が 19.9%、「サービス業」が 13.9%などとなっている。

2. 操業年数

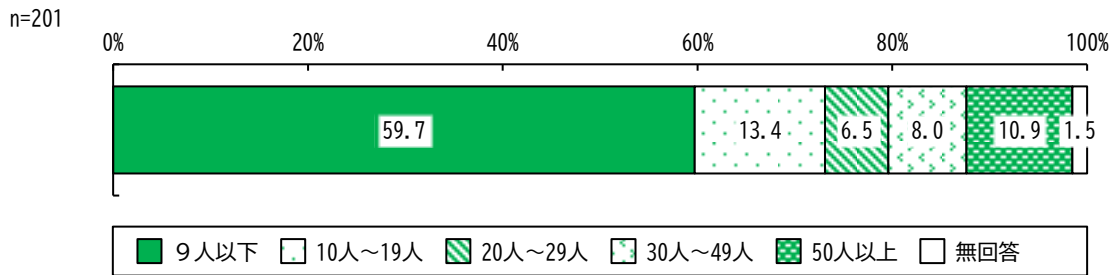
問2 岡谷市での操業年数を教えてください。(○はひとつ)



操業年数は「30年以上」が 75.1%と社歴の長い事業者が約 3/4 を占めている。以下、「20年以上～30年未満」が 10.0%、「10年以上～20年未満」が 7.0%となっている。

3. 従業員数

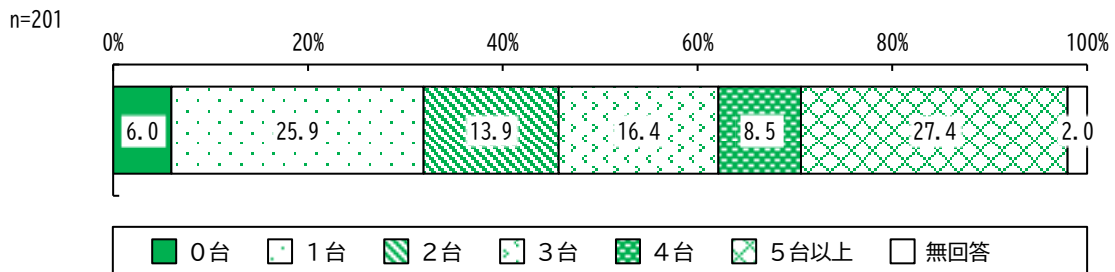
問3 従業員数（派遣、パート、アルバイト含む）



従業員数は「9人以下」が59.7%と半数以上を占め、以下「10人～19人」が13.4%、「50人以上」が10.9%で、平均は22.5人となっている。

4. 社用の自動車所有台数

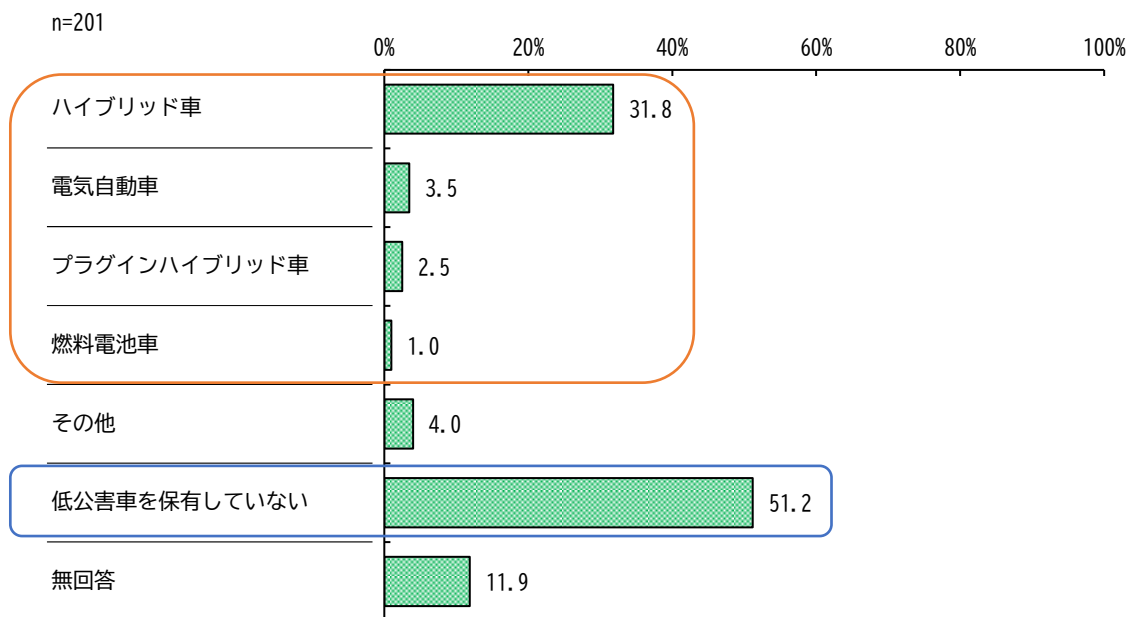
問4 社用の自動車所有台数（軽、普通、大型等全て含む）



社用の自動車所有台数は「5台以上」が27.4%、「1台」が25.9%、「2台」が13.9%で、平均は4.9台となっている。

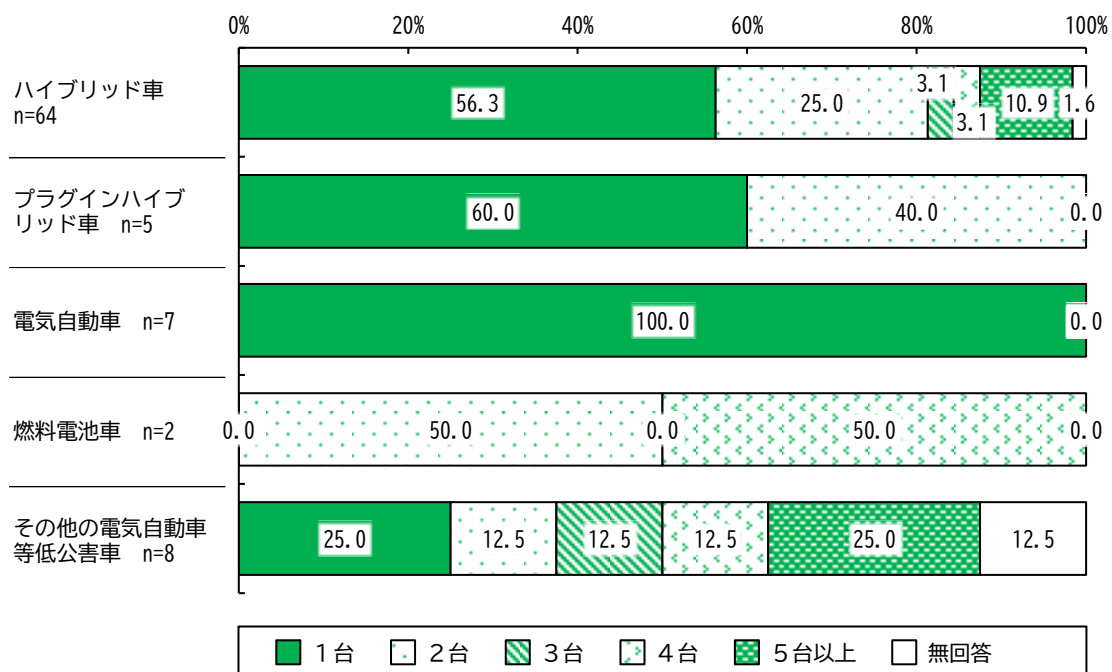
5. 電気自動車等低公害車（エコカー）所有について

問5 上記の内、電気自動車等低公害車（エコカー）所有台数
 <所有している車種>



所有している電気自動車等低公害車（エコカー）の車種では、「ハイブリッド車」が31.8%などとなっている。一方「低公害車を保有していない」は51.2%と約半数を占め、低公害車の普及は途上と言える。

<所有台数>



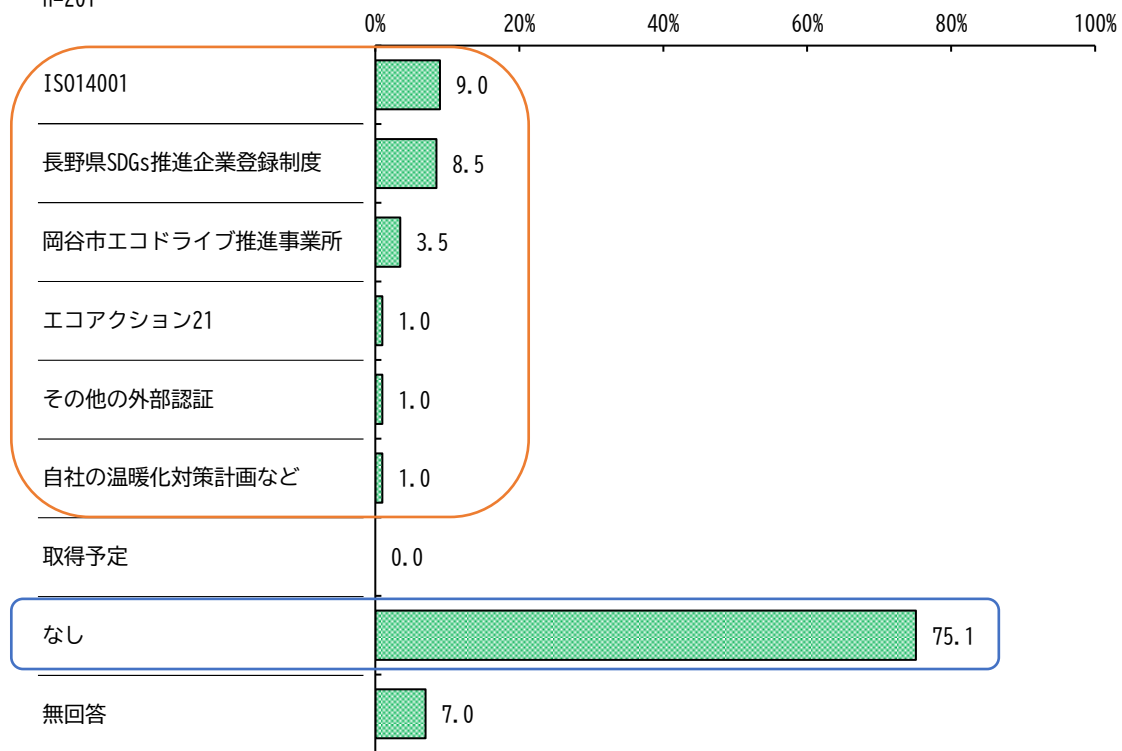
電気自動車等低公害車（エコカー）の台数では、所有の多いハイブリッド車で「1台」が56.3%、「2台」が25.0%、「5台以上」が10.9%などとなっており、複数台所有の事業者は約4割を占める。

平均は、ハイブリッド車が3.3台、プラグインハイブリッド車が1.4台（n=5）、電気自動車が1.0台（n=7）である。

6. 認証取得している環境マネジメントシステム等

問6 認証取得している環境マネジメントシステム等がありますか。(〇はいくつでも)

n=201



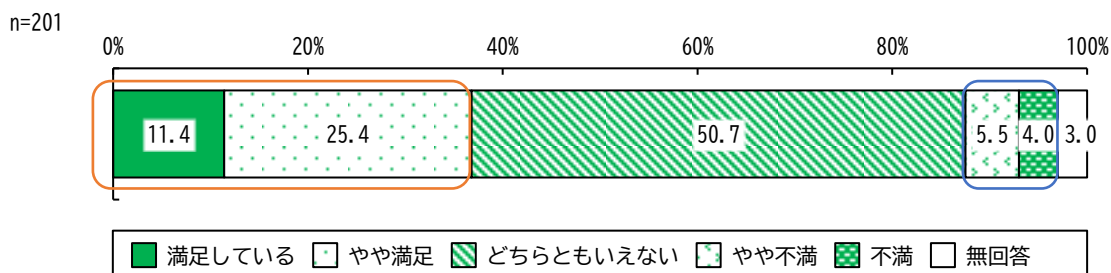
認証取得している環境マネジメントシステム等は「ISO14001」が9.0%、「長野県 SDGs 推進企業登録制度」が8.5%、「岡谷市エコドライブ推進事業所」が3.5%などとなっている。一方「なし」は、75.1%と多くを占めている。

前回調査（令和元年）と比較すると、どちらの調査でも「なし」が7割以上（前回74.0%、今回75.1%）を占め、前回とほぼ同じ割合である。

2) 環境に関して

1. 岡谷市全体の環境について、どのように感じているか

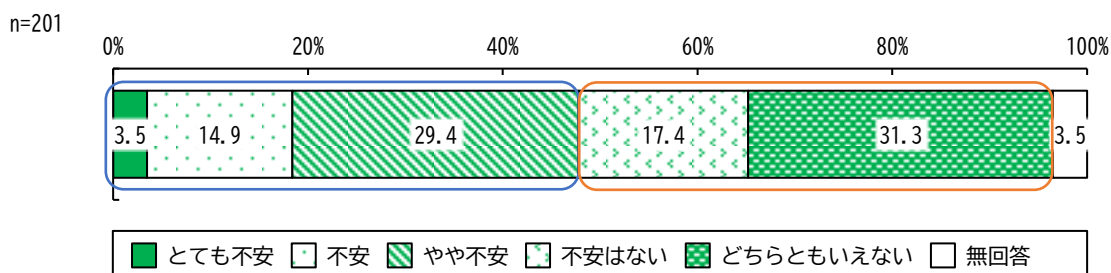
問7 岡谷市全体の環境（自然環境、生活環境等）について、どのように感じていますか。（○はひとつ）



岡谷市全体の環境について、どのように感じているかでは、「どちらともいえない」が50.7%と約半数を占めている。「満足している」と「やや満足」を合わせた『満足』は36.8%、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は9.5%となっている。

2. 将来の岡谷市全体の環境に対して不安はあるか

問8 将来の岡谷市全体の環境に対して不安はありますか。（○は1つまで）

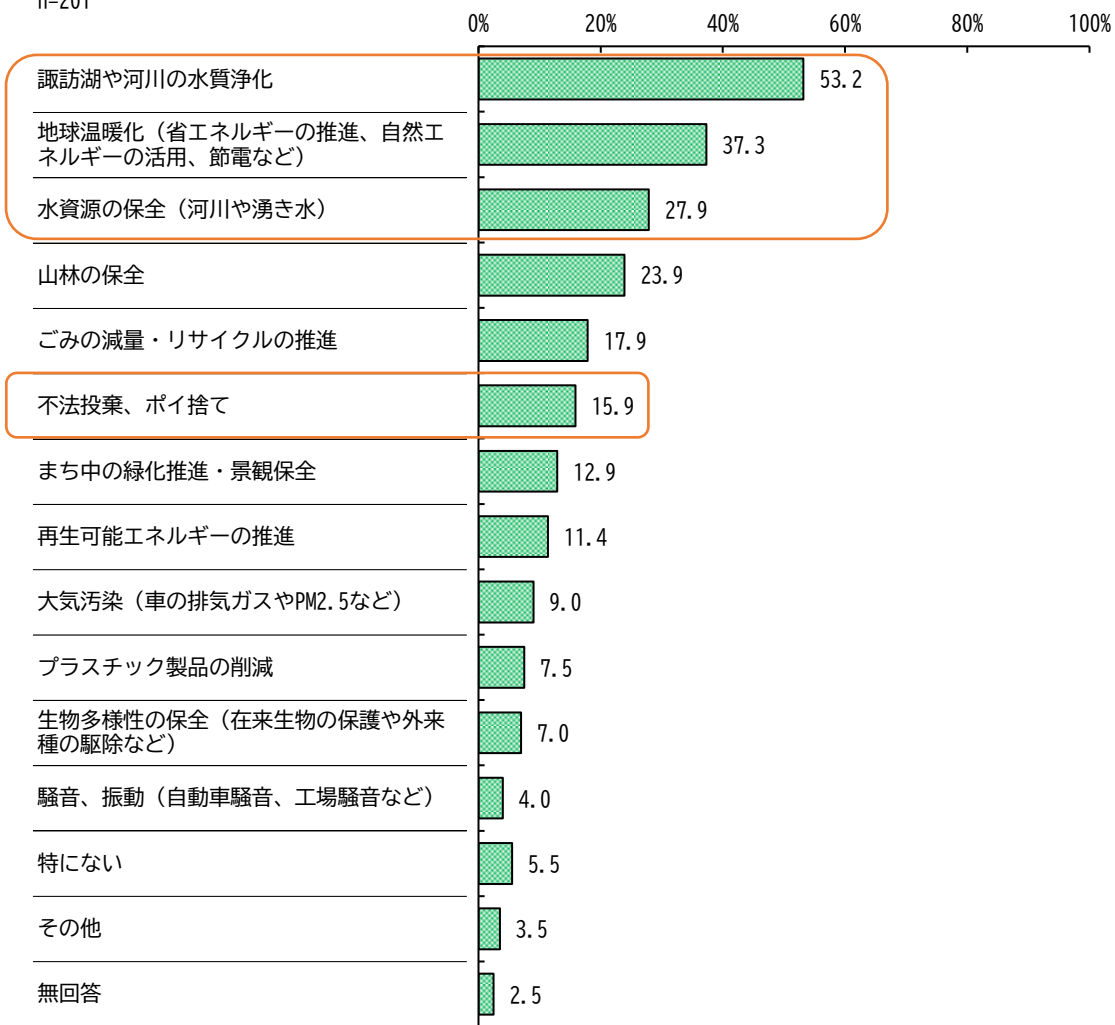


将来の岡谷市全体の環境に対して不安はあるかでは、「とても不安」「不安」「やや不安」を合わせた『不安』は47.8%と半数弱を占める。一方、「不安はない」「どちらともいえない」は、48.7%となっており、環境に対しての意見が二分した。

3. 身のまわりの環境問題で、特に関心があるもの

問9 身のまわりの環境問題で、特に関心があるものは何ですか。(○は3つまで)

n=201



身のまわりの環境問題で、特に関心があるものでは、「諏訪湖や河川の水質浄化」が 53.2%と半数を超え、市民と同様に関心が高い。以下、「地球温暖化（省エネルギーの推進、自然エネルギーの活用、節電など）」が 37.3%、「水資源の保全（河川や湧き水）」が 27.9%などとなっている。

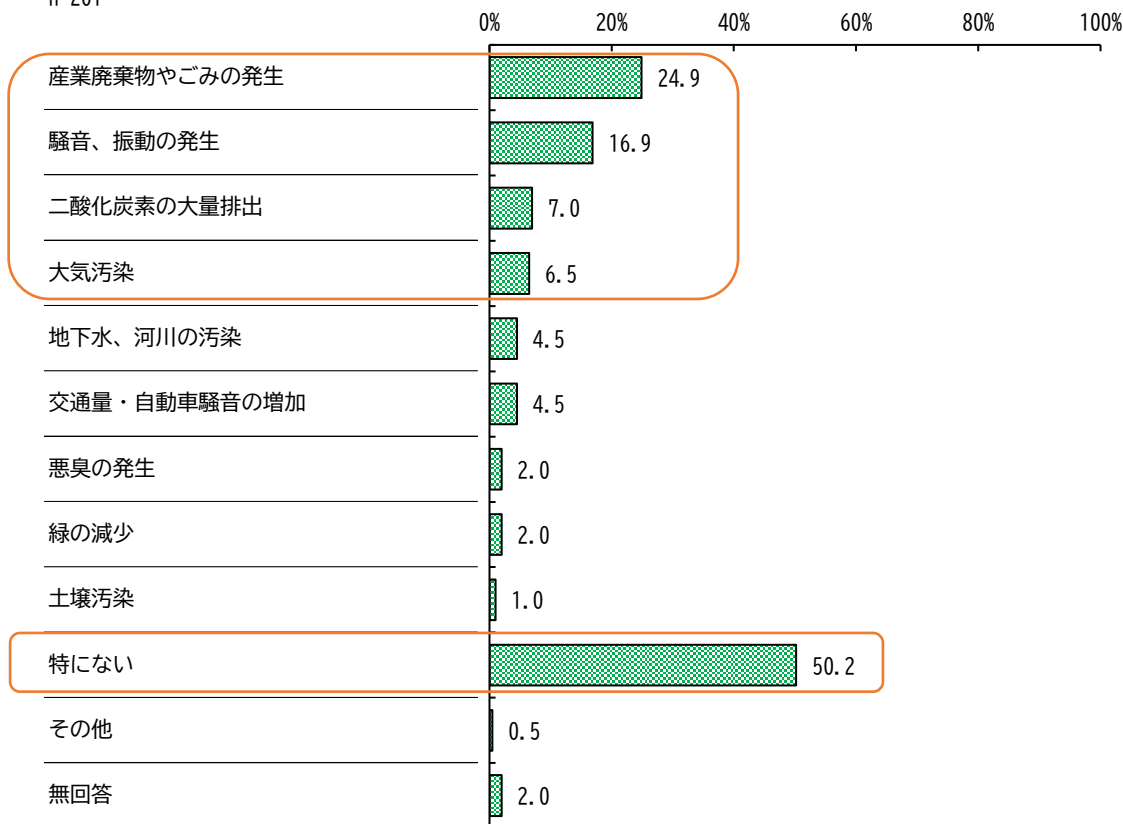
前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「諏訪湖や河川の水質浄化」（前回 50.3%、今回 53.2%）が最も高く、次いで「地球温暖化（省エネルギーの推進、自然エネルギーの活用、節電など）」（前回調査では「地球温暖化防止（省エネルギーの推進、節電など）」（前回 38.5%、今回 37.3%）となっている。

前回調査の3位は「不法投棄、ポイ捨て」で 27.1%であったが、今回調査では 15.9%で6位となっており、「ごみのないまち」という点で評価されている。

4. 事業所が地域の環境に及ぼしている影響として、比較的大きいと考えられるもの

問 10 貴事業所が地域の環境に及ぼしている影響として、比較的大きいと考えられるものは何ですか。(〇は3つまで)

n=201



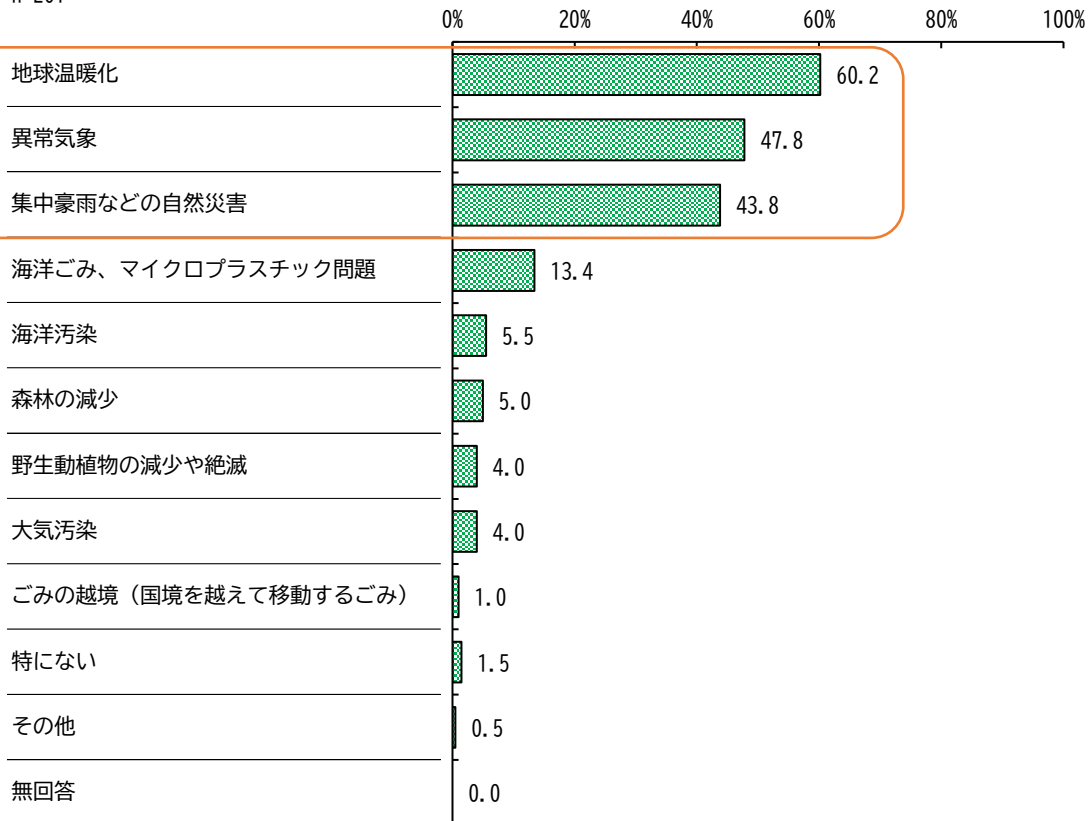
事業所が地域の環境に及ぼしている影響として、比較的大きいと考えられるものでは、「産業廃棄物やごみの発生」が 24.9%と最も高く、次いで「騒音、振動の発生」が 16.9%、「二酸化炭素の大量排出」が 7.0%、「大気汚染」が 6.5%などとなっている。一方、「特にない」も 50.2%と約半数を占める。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「産業廃棄物やごみの発生（前回調査は「産業廃棄物の発生」）」（前回 23.7%、今回 24.9%）が最も高く、次いで「騒音、振動の発生」（前回 17.2%、今回 16.9%）となっている。前回調査で3位は、「交通量・自動車騒音の増加」が 10.1%だったが、今回調査では 4.5%で5位と割合は低くなっている。

5. 地球規模の環境問題で、特に関心があるもの

問 11 地球規模の環境問題で、特に関心があるものは何ですか。(○は3つまで)

n=201

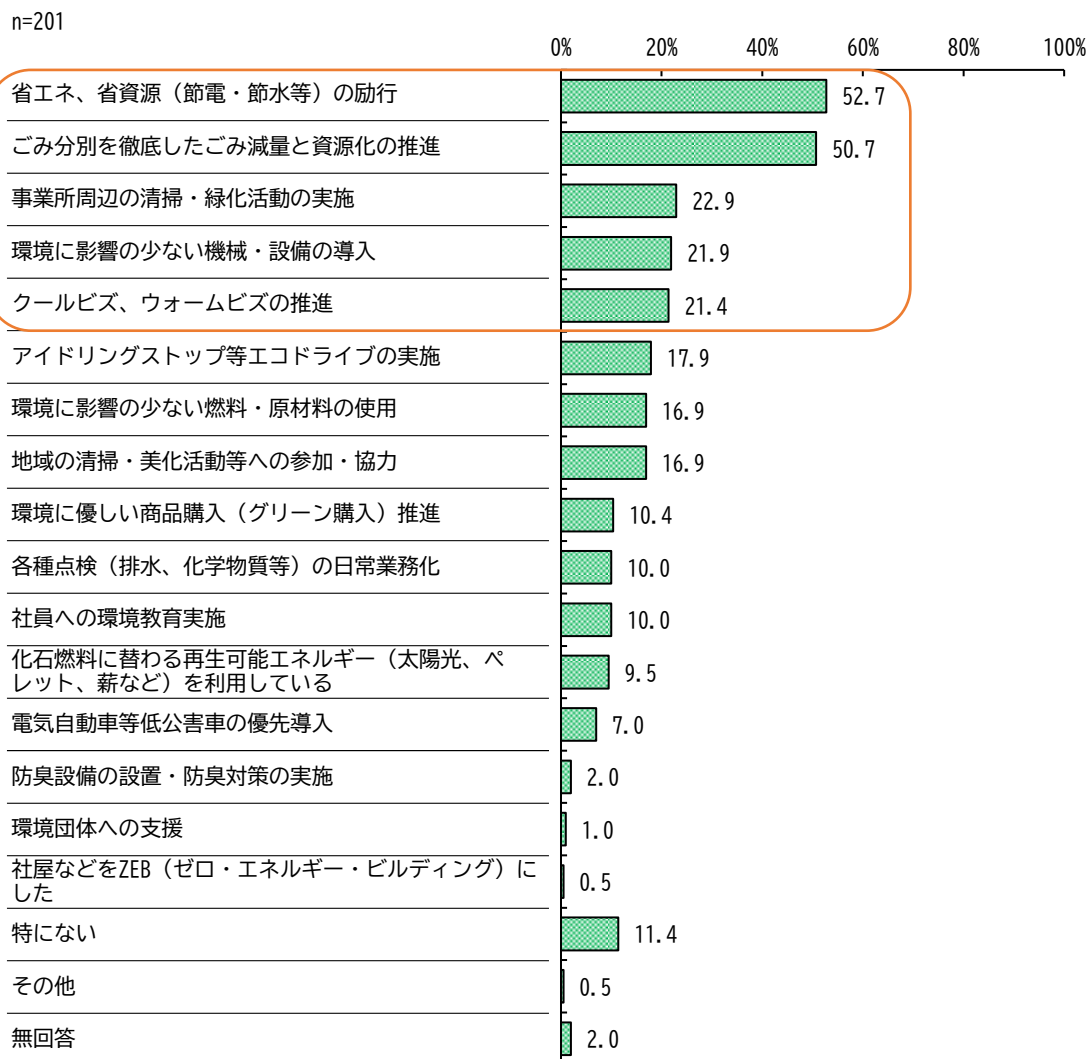


地球規模の環境問題で、特に関心があるものでは、「地球温暖化」が60.2%、「異常気象」が47.8%、「集中豪雨などの自然災害」が43.8%と、この3つが半数前後と多くなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「地球温暖化」（前回63.3%、今回60.2%）が最も高く、次いで「異常気象」（前回調査では「異常気象（猛暑、ゲリラ豪雨など）」（前回49.7%、今回47.8%）となっている。前回調査で3位は「海洋ごみ、マイクロプラスチック問題」で24.3%だったが、今回調査では13.4%で4位と割合も低くなっている。

6. 環境保全のために事業活動の中でどんなことに取り組んでいるか

問 12 環境保全のために事業活動の中でどんなことに取り組んでいますか。(○はいくつでも)



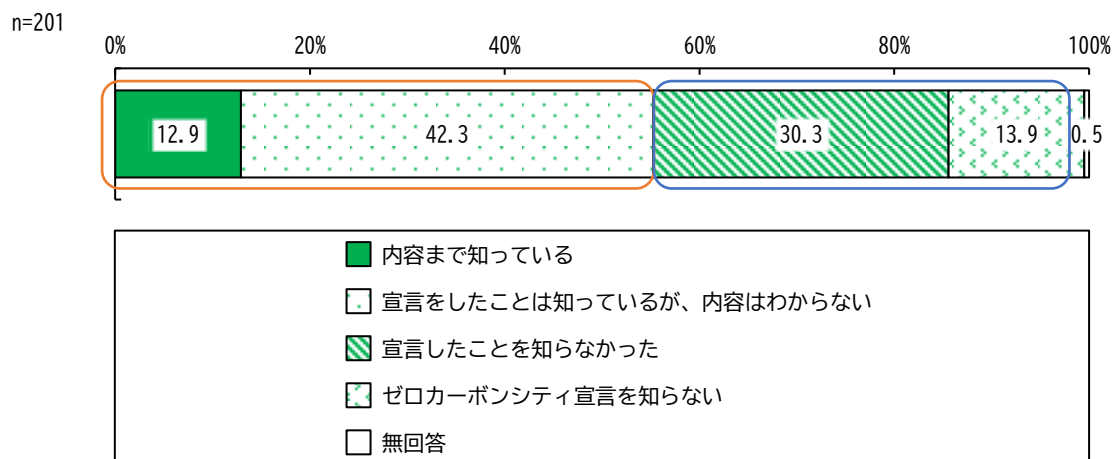
環境保全のために事業活動の中でどんなことに取り組んでいるかでは、「省エネ、省資源（節電・節水等）の励行」が52.7%、「ごみ分別を徹底したごみ減量と資源化の推進」が50.7%と、この2つが半数以上で、省エネ、ごみ減量への取り組みが伺える。

前回調査（令和元年度）と比較すると、前回調査では「ごみ分別を徹底したごみ減量と資源化の推進」（59.2%）、が最も高く、次いで「省エネ、省資源（節電・節水等）の励行」（42.6%）となっており、省エネ機運の高まりが伺える。以下、「事業所周辺の清掃・緑化活動の実施」（30.2%）、「事業所周辺の清掃・緑化活動の実施」（30.2%）、「クールビズ、ウォームビズの推進」（24.9%）で、割合の変動はあるものの上位5項目に変動はない。

3) ゼロカーボンの推進について

1. 岡谷市がゼロカーボンシティ宣言をしていることを、知っているか

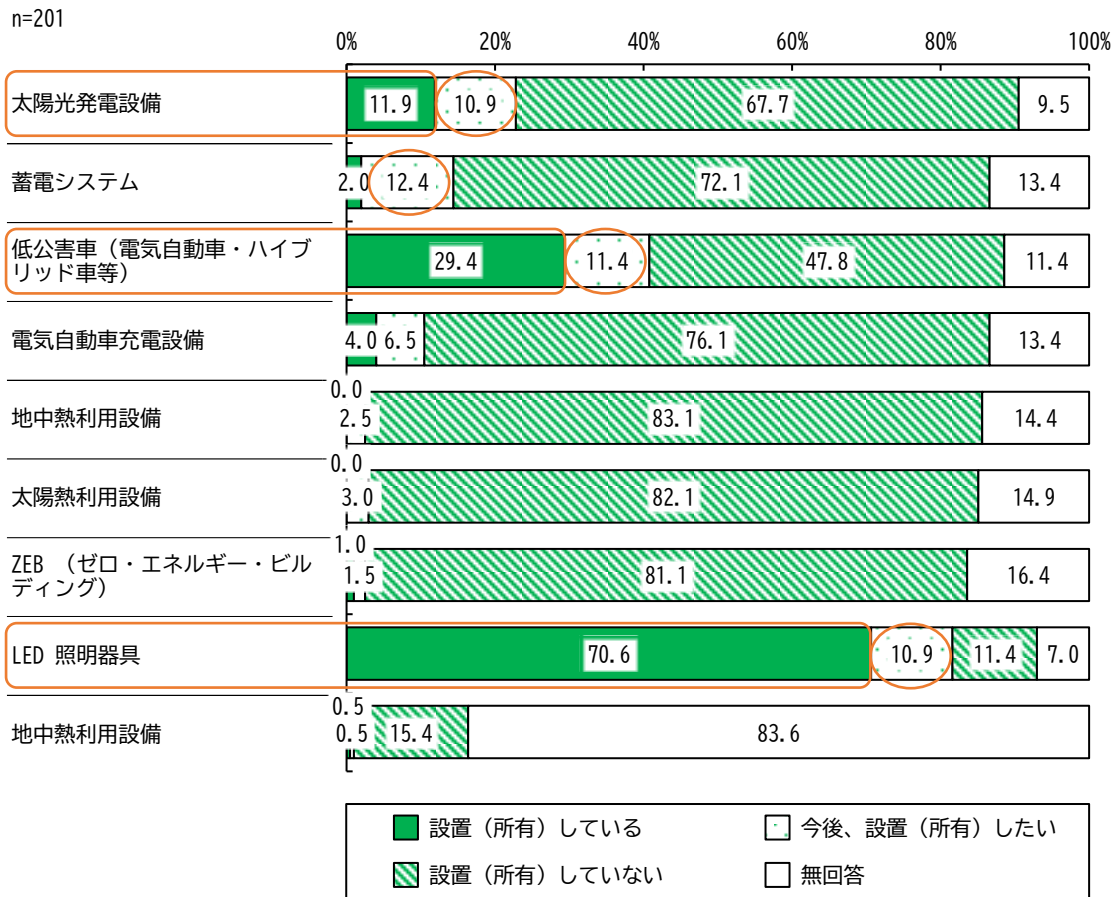
問 13 岡谷市がゼロカーボンシティ宣言をしていることを、知っていますか。(○はひとつ)



岡谷市のゼロカーボンシティ宣言については、「内容まで知っている」が 12.9%、「宣言したことは知っているが、内容はわからない」が 42.3%と、両者を合わせた「知っている」という人は 55.2%と半数を超えるが、市民と同様に今後の周知が必要である。

2. 環境に配慮した設備等を設置・所有しているか

問 14 環境に配慮した設備等を設置・所有されていますか。（各項目へ○はひとつずつ）

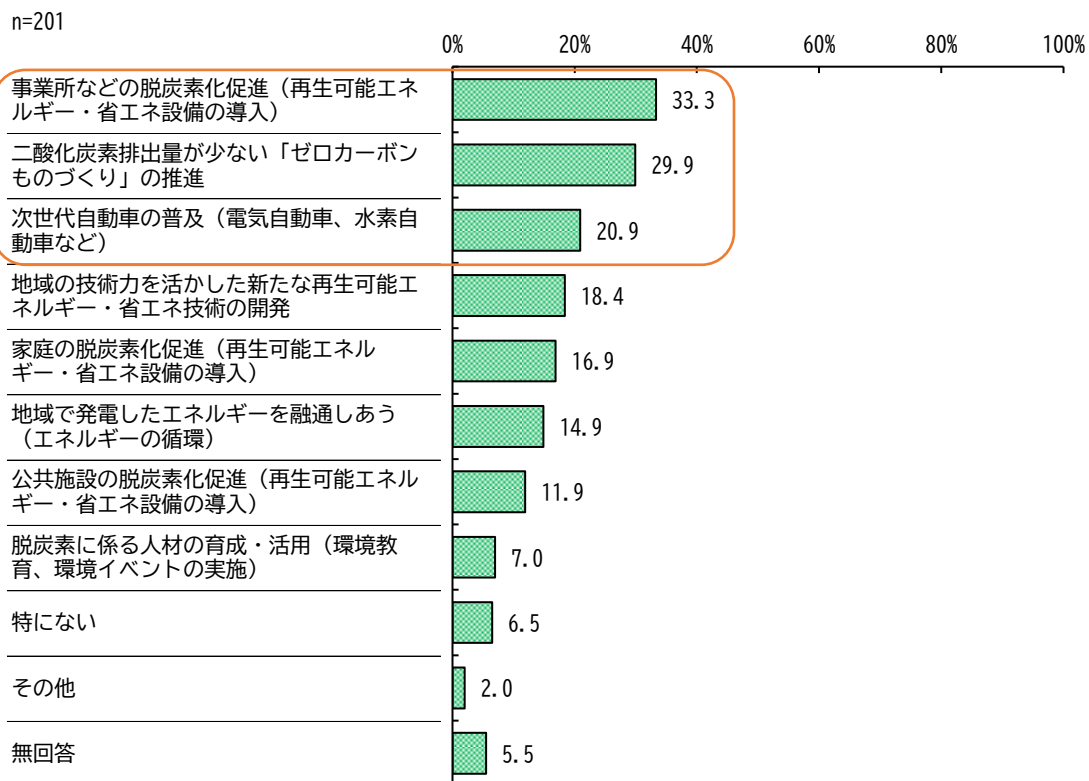


環境に配慮した設備等について、「設置（所有）している」は、『LED 照明器具』が 70.6%、『低公害車（電気自動車・ハイブリッド車等）』が 29.4%、『太陽光発電設備』が 11.9%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、『低公害車（電気自動車・ハイブリッド車等）』（前回『ハイブリッド車等の低燃費車』）で「設置（所有）している」が前回 21.3%、今回 29.4%と割合が高くなっている。また、『太陽光発電設備』で「今後、設置（所有）したい」が前回 6.5%から今回 10.9%と高くなっている。

3. 二酸化炭素排出量を削減するためにどんなことが必要だと思うか

問 15 二酸化炭素排出量を削減するためにどんなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

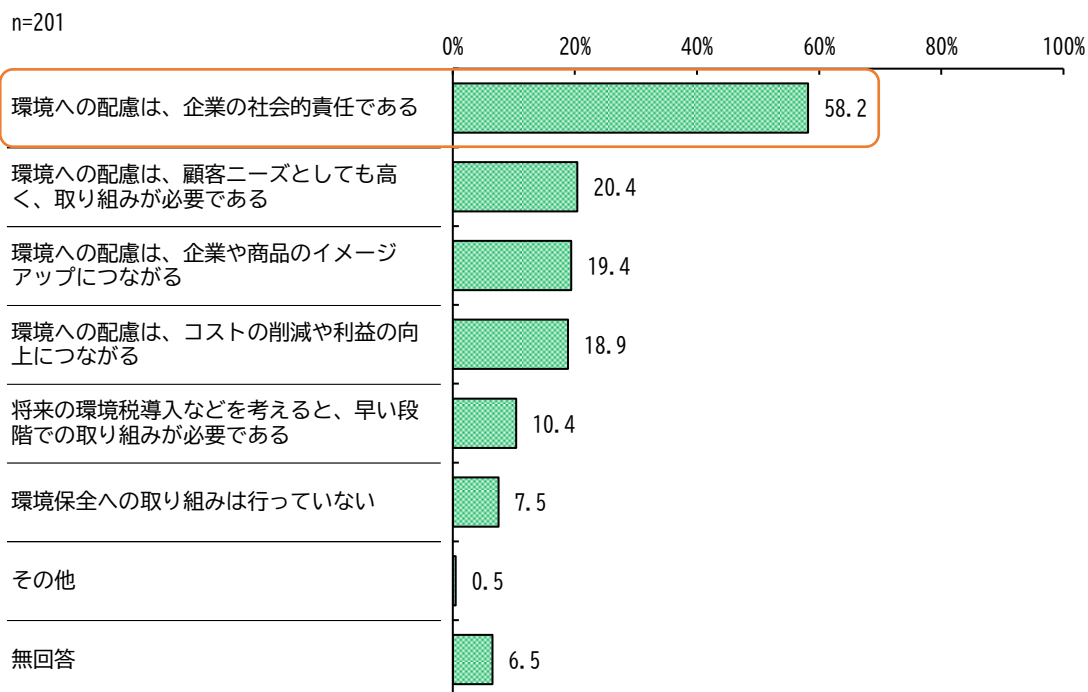


二酸化炭素排出量を削減するために必要だと思うことは、「事業所などの脱炭素化促進（再生可能エネルギー・省エネ設備の導入）」が 33.3%、「二酸化炭素排出量が少ない「ゼロカーボンものづくり」の推進」が 29.9%と、この2つが約3割である。次いで「次世代自動車の普及（電気自動車、水素自動車など）」が 20.9%などとなっている。

4) 環境への取り組みについて

1. 環境への配慮はどのような考え方から取り組んでいるか

問 16 環境への配慮はどのような考え方から取り組んでいますか。(○は2つまで)

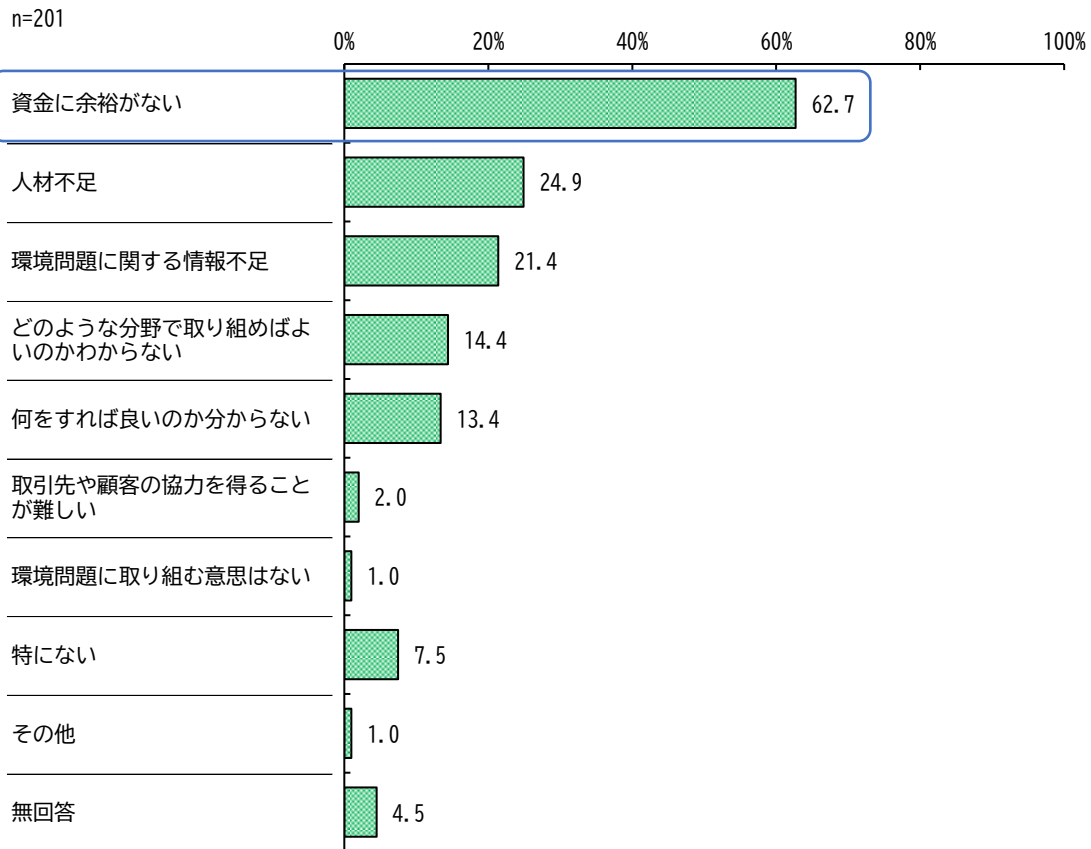


環境への配慮はどのような考え方から取り組んでいるかでは、「環境への配慮は、企業の社会的責任である」が 58.2%と突出している。以下、「環境への配慮は、顧客ニーズとしても高く、取り組みが必要である」が 20.4%、「環境への配慮は、企業や商品のイメージアップにつながる」が 19.4%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「環境への配慮は、企業の社会的責任である」（前回 60.4%、今回 58.2%）が最も高くなっている。

2. 環境問題への取り組みを進める上での問題点

問 17 環境問題への取り組みを進める上での問題点は何ですか。(○は2つまで)

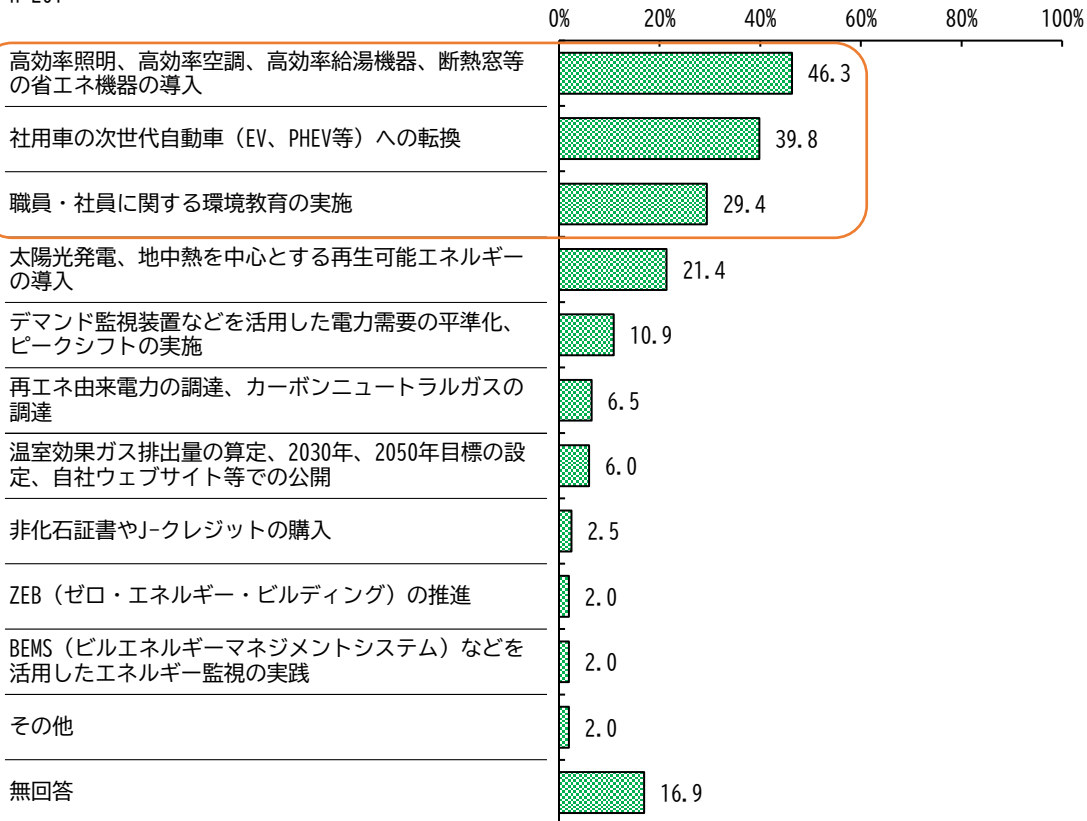


環境問題への取り組みを進める上での問題点では、「資金に余裕がない」が 62.7%と突出している。以下、「人材不足」が 24.9%、「環境問題に関する情報不足」が 21.4%などとなっている。

3. 事業者で今後どのようなことに取り組むことができるか

問 18 貴社は、今後どのようなことに取り組むことができますか。（○はいくつでも）

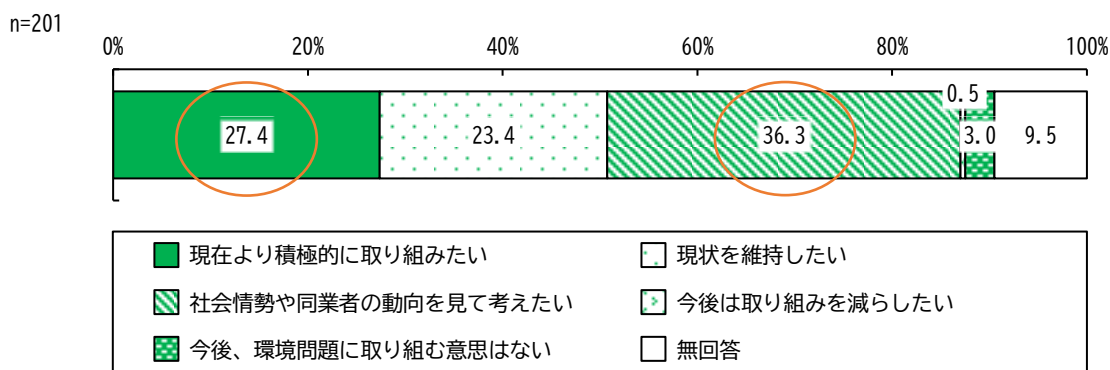
n=201



今後の可能な取り組みでは、「高効率照明、高効率空調、高効率給湯機器、断熱窓等の省エネ機器の導入」が46.3%と最も高く、次いで「社用車の次世代自動車（EV、PHEV等）への転換」が39.8%、「職員・社員に関する環境教育の実施」が29.4%などとなっている。

4. 今後、環境問題に対してどのように取り組んでいこうと考えているか

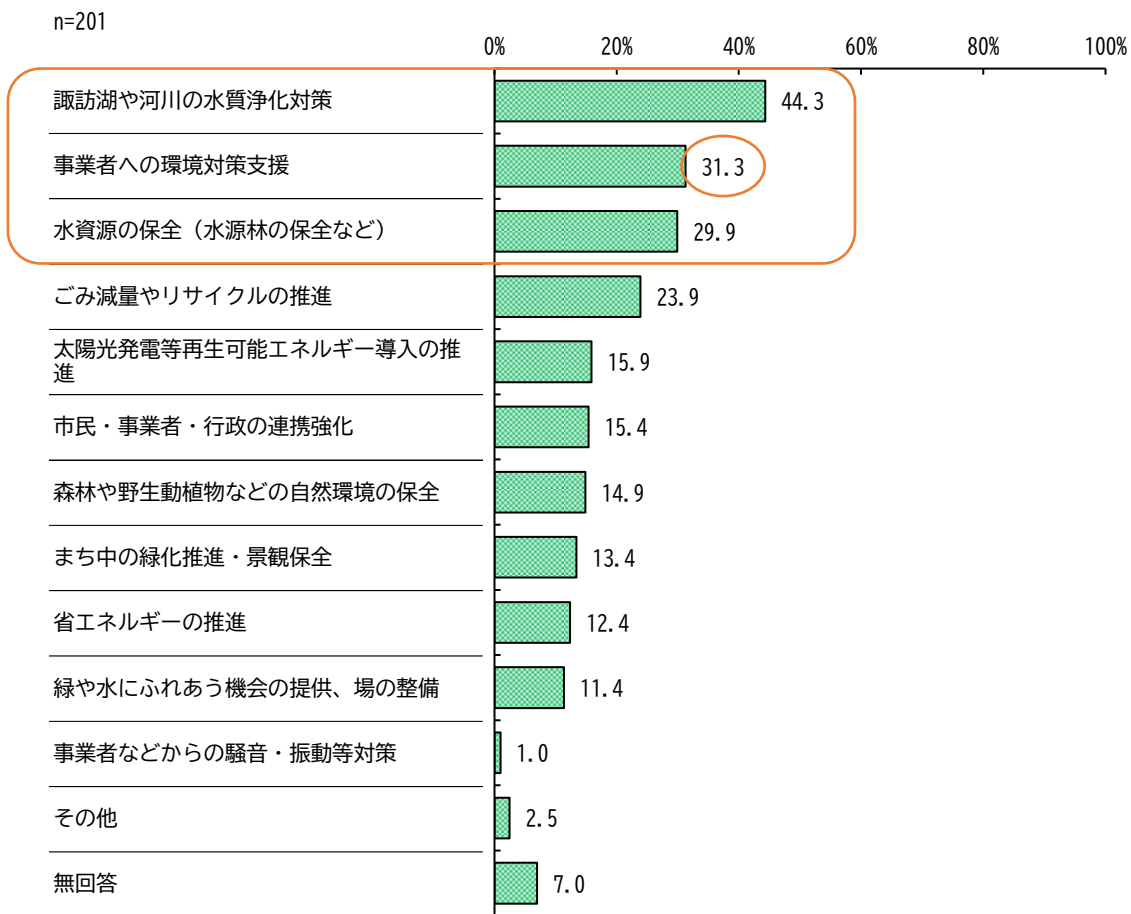
問 19 今後、環境問題に対してどのように取り組んでいこうと考えていますか。（○は1つまで）



今後、環境問題に対してどのように取り組んでいこうと考えているかでは、「社会情勢や同業者の動向を見て考えたい」が 36.3%と 1/3 以上を占め、次いで「現在より積極的に取り組みたい」が 27.4%と 3 割弱を占めている。

5. 環境を良くするために市が優先的に取り組むべきと思うこと

問 20 環境を良くするために市が優先的に取り組むべきと思うことは何ですか。（○は3つまで）



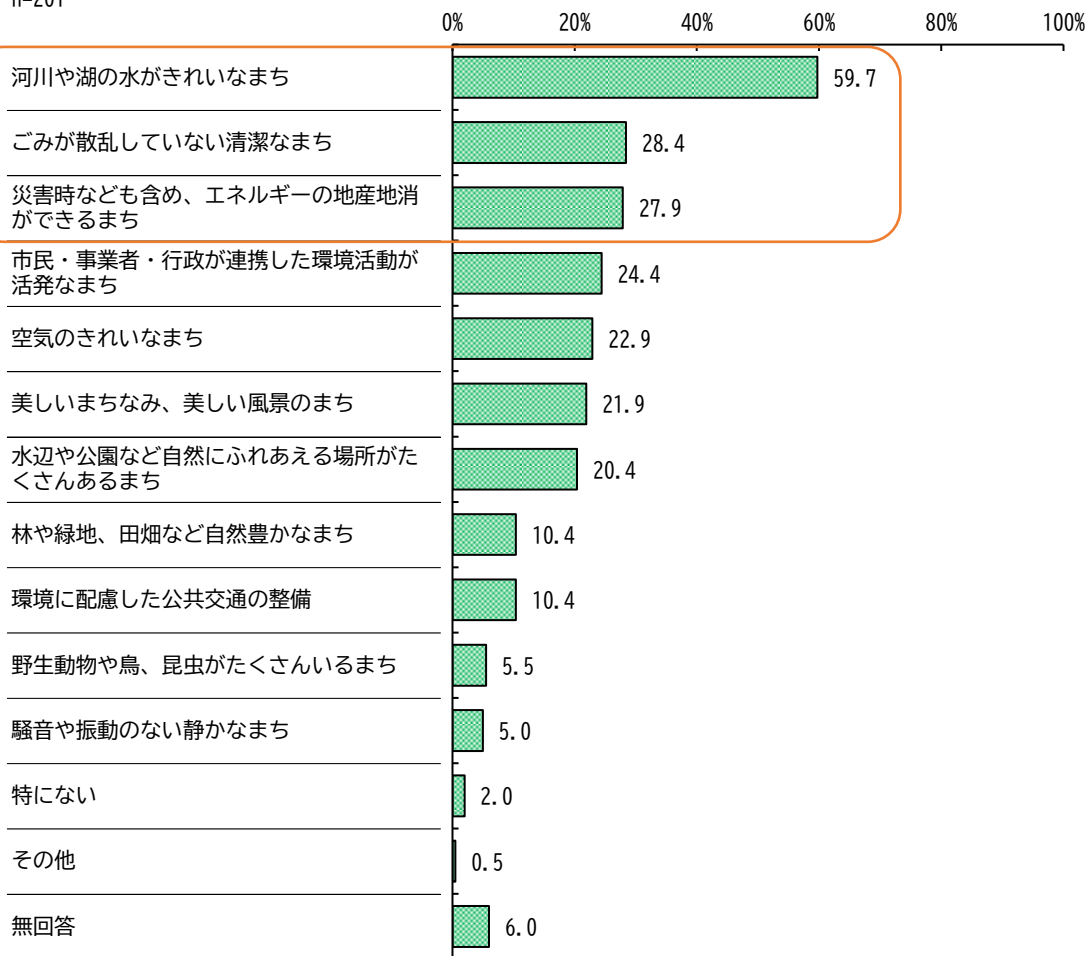
環境を良くするために市が優先的に取り組むべきと思うことでは、「諏訪湖や河川の水質浄化対策」が44.3%と最も高く、次いで「事業者への環境対策支援」が31.3%、「水資源の保全（水源林の保全など）」が29.9%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「諏訪湖や河川の水質浄化対策」（前回 55.0%、今回 44.3%）が最も高くなっている。また、「事業者への環境対策支援」が前回 13.0%から今回 31.3%と高く、支援を求める声が大きくなっている。

6. 将来の岡谷市がどのような環境のまちになることを望むか

問 21 将来の岡谷市がどのような環境のまちになることを望みますか。(○は2つまで)

n=201



将来の岡谷市がどのような環境のまちになることを望むかでは、「河川や湖の水がきれいなまち」が 59.7% と突出しており、以下「ごみが散乱していない清潔なまち」が 28.4%、「災害時なども含め、エネルギーの地産地消ができるまち」が 27.9% などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「河川や湖の水がきれいなまち」（前回調査では「河川や湖の水のきれいなまち」）（前回 53.3%、今回 59.7%）が最も高くなっている。次に高いものは、「水辺や公園など自然とふれあえる場所がたくさんあるまち」（21.9%）であったが、今回調査では 20.4% で 7 位と低く、「ごみが散乱していない清潔なまち」（前回調査では「ごみ散乱のない清潔なまち」）（前回 21.3%、今回 28.4%）が高くなっている。

3 小中学生アンケート調査結果

(1) 調査概要

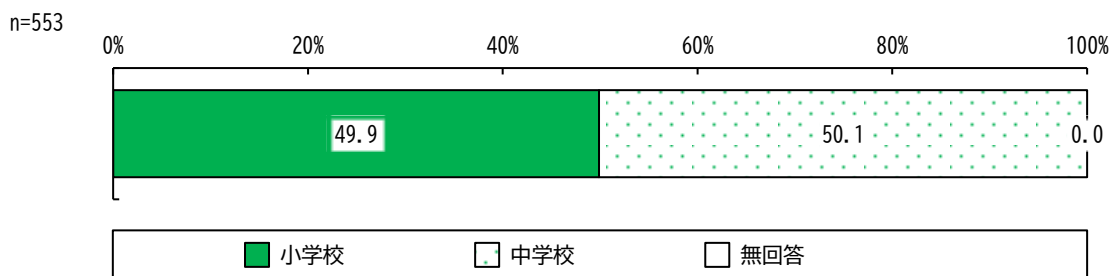
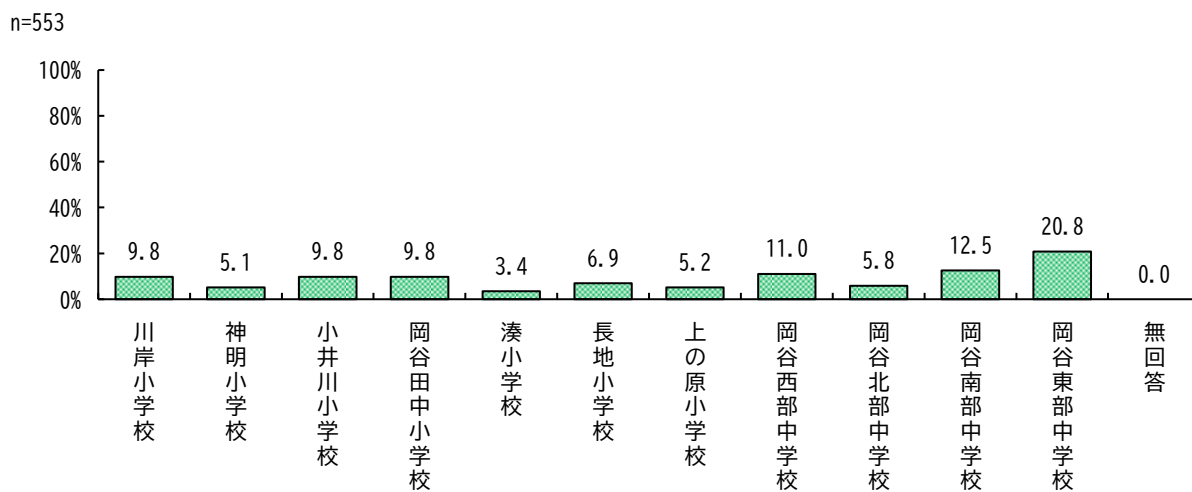
調査対象先	小中学生 713 人
回答者数	578 人
回収率	81.1%

(2) アンケート結果

1) 回答者について

1. 学校種別

問1 学校名を教えてください。

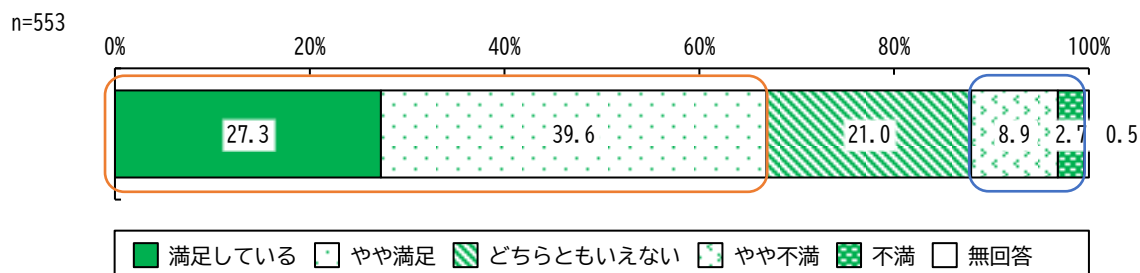


学校種別は「小学校」が 49.9%、「中学校」が 50.1%となっている。

2) 環境に関して

1. 岡谷市全体の環境について、どのように感じているか

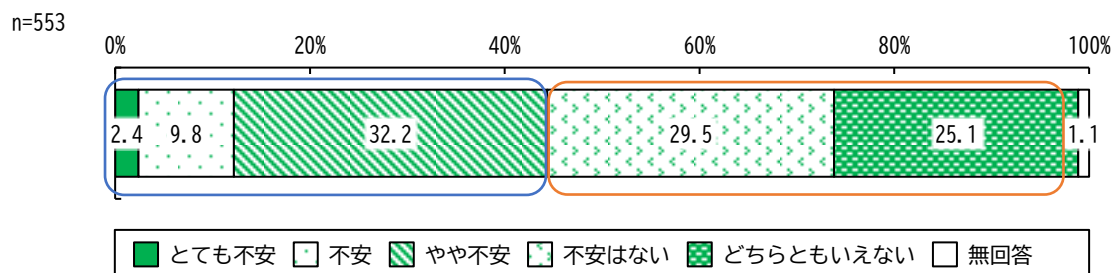
問2 岡谷市全体の環境(自然環境、生活環境等)について、どのように感じていますか。(〇はひとつ)



岡谷市全体の環境について、「満足している」が27.3%、「やや満足」が39.6%で、両者を合わせた『満足』は66.9%と7割近くを占める。一方、「やや不満」は8.9%、「不満」は2.7%で、両者を合わせた『不満』は11.6%となっている。

2. 将来の岡谷市全体の環境に対して不安はあるか

問3 将来の岡谷市全体の環境に対して不安はありますか。(〇は1つまで)

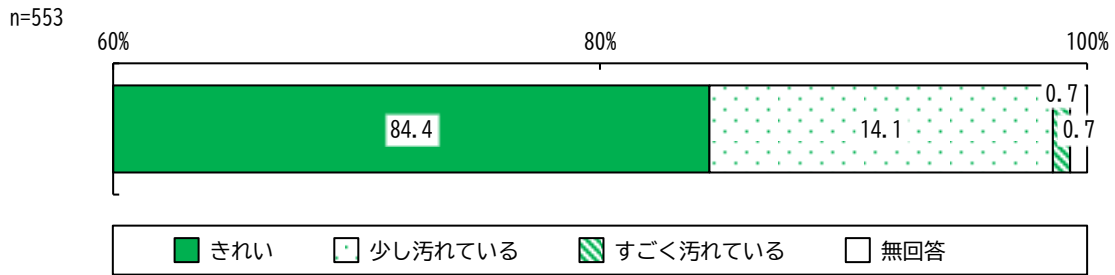


将来の岡谷市全体の環境に対して不安はあるかでは、「とても不安」「不安」「やや不安」を合わせた『不安』は44.3%と半数弱を占める。一方、「不安はない」「どちらともいえない」は、54.6%となっており、環境に対しての意見が二分した。

3. 家や学校のまわりの環境についてどのように感じているか

問4 家や学校のまわりの環境についてどのように感じていますか。（各項目へ○はひとつずつ）

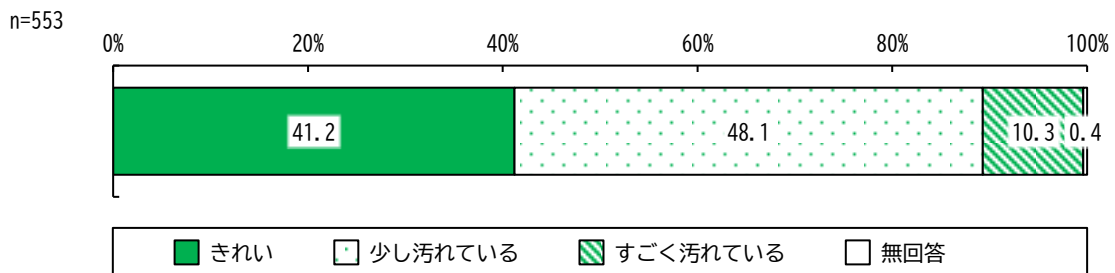
<1 空気はきれいですか>



家や学校のまわりの環境についてどのように感じているかでは、空気は「きれい」が 84.4%と大半を占める。「少し汚れている」は 14.1%、「すごく汚れている」は 0.7%となっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、「きれい」（前回は「そう思う」）は、前回は 84.4%、今回が 84.4%と高くなっている。

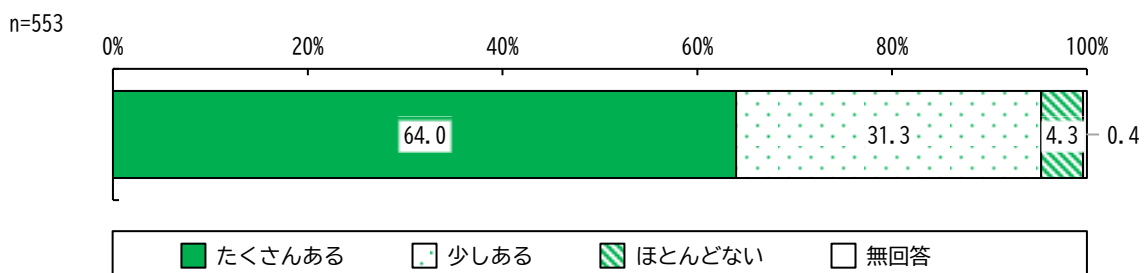
<2 川の水はきれいですか>



川の水については、「きれい」が 41.2%、「少し汚れている」が 48.1%、「すごく汚れている」が 10.3%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、「きれい」（前回は「そう思う」）は、前回は 25.7%、今回が 41.2%と高くなっている。

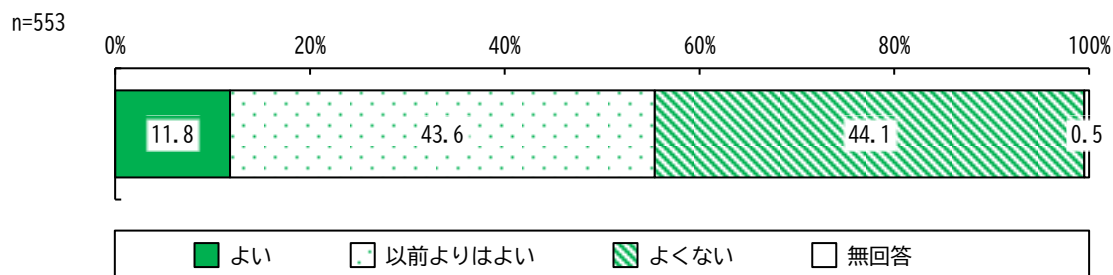
<3 林、緑地や田畑など近くに自然はありますか>



林、緑地や田畑など近くの自然については、「たくさんある」が 64.0%、「少しある」が 31.3%、「ほとんどない」が 4.3%となっている。

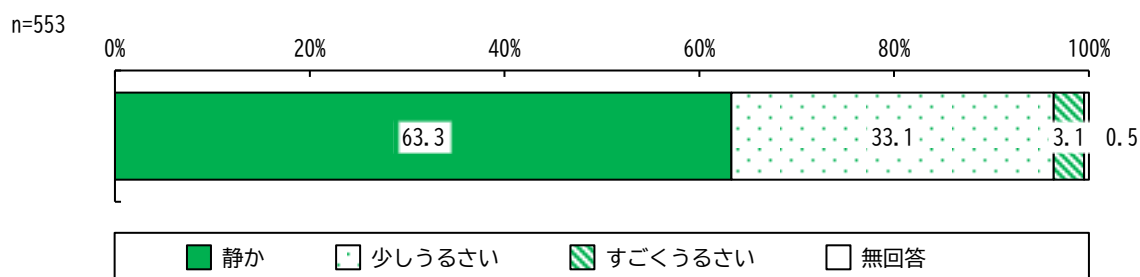
前回調査（令和元年度）と比較すると、「たくさんある」（前回は「そう思う」）は、前回は 67.8%、今回が 64.0%とやや低くなっている。

< 4 諏訪湖の環境は良いと思いますか >



諏訪湖の環境については、「よい」が11.8%、「以前よりはよい」が43.6%、「よくない」が44.1%と評価はあまり高くない。

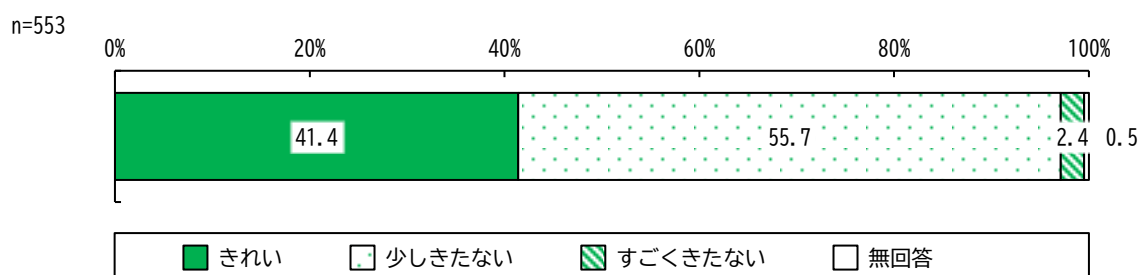
< 5 まわりは静かですか（騒音・振動） >



まわりの静けさ（騒音・振動）については、「静か」が63.3%、「少しうるさい」が33.1%、「すごくうるさい」が3.1%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、「静か」（前回は「そう思う」）は、前回は35.8%、今回が63.3%と高くなっている。

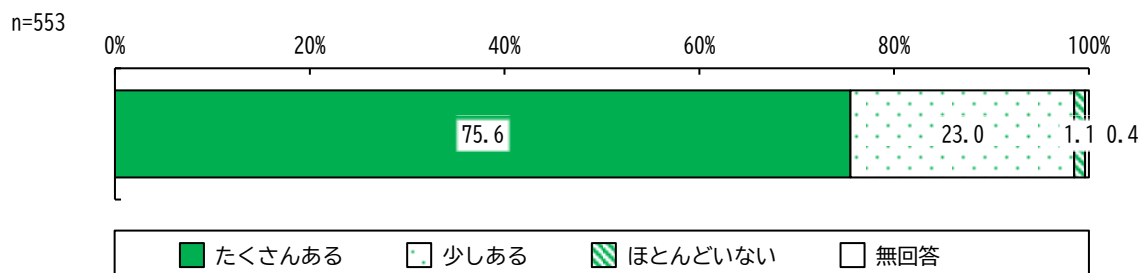
< 6 ごみが散らかっていないできれいですか >



ごみの散乱については、「きれい」が41.4%、「少しきたない」が55.7%、「すごくきたない」が2.4%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、「きれい」（前回は「そう思う」）は、前回は25.4%、今回が41.4%と高くなっている。

< 7 まわりに木や植物はたくさんありますか >

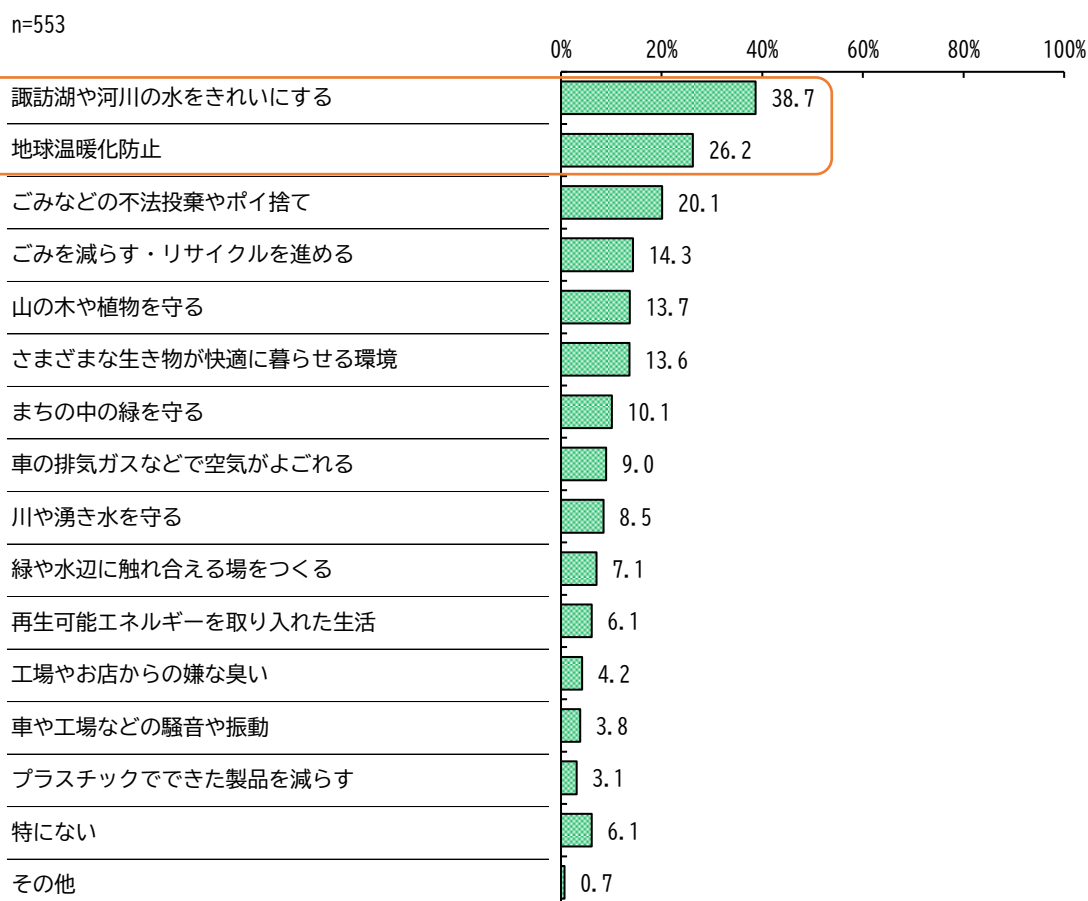


まわりの木や植物については、「たくさんある」が 75.6%、「少しある」が 23.0%、「ほとんどいない」が 1.1%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、「たくさんある」（前回は「そう思う」）は、前回は 67.8%、今回が 75.6%と高くなっている。（前回の質問文は『林、緑地など近くに自然はありますか』）

4. 特に関心がある身近な環境問題

問 5 特に関心がある身近な環境問題は何ですか。（○は2 つまで）



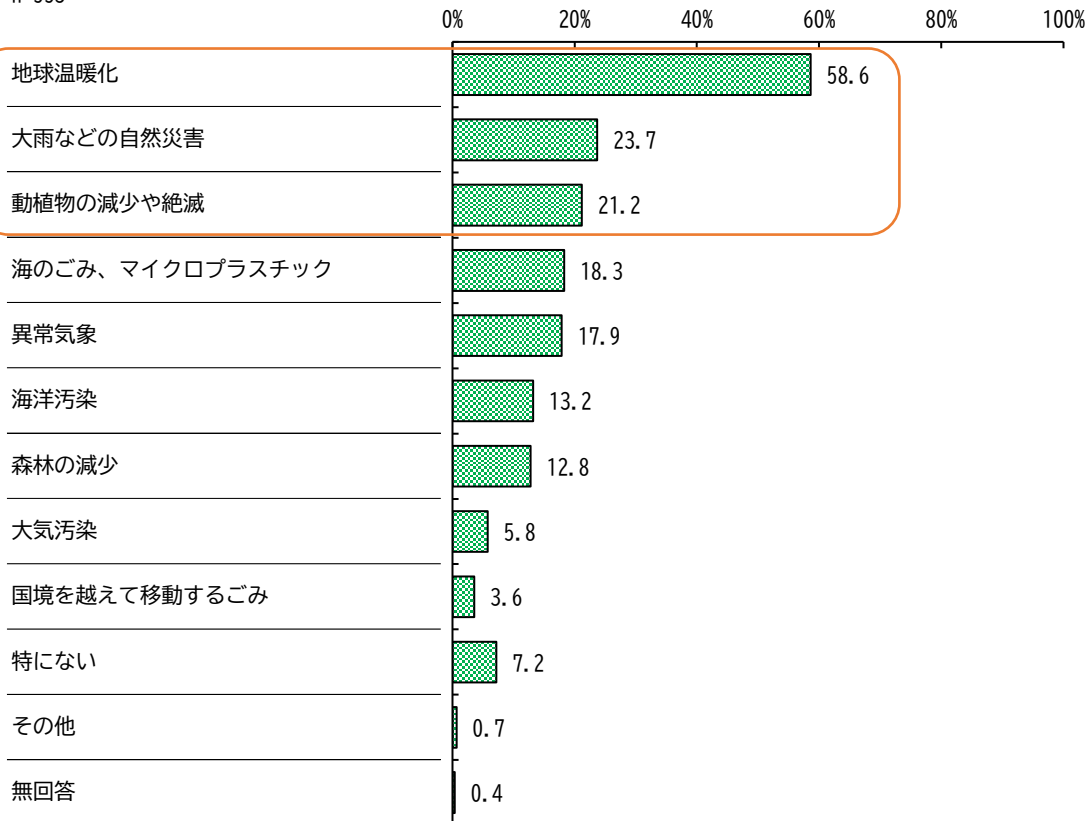
特に関心がある身近な環境問題は、「諏訪湖や河川の水をきれいにする」が 38.7%、「地球温暖化防止」が 26.2%、「ごみなどの不法投棄やポイ捨て」が 20.1%などとなっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「諏訪湖や河川の水をきれいにする（前回調査では「諏訪湖や川の水をきれいにする」）」（前回 43.6%、今回 38.7%）が最も高くなっている。

5. 特に関心がある地球規模の環境問題

問6 特に関心がある地球規模の環境問題は何ですか。(○は2つまで)

n=553



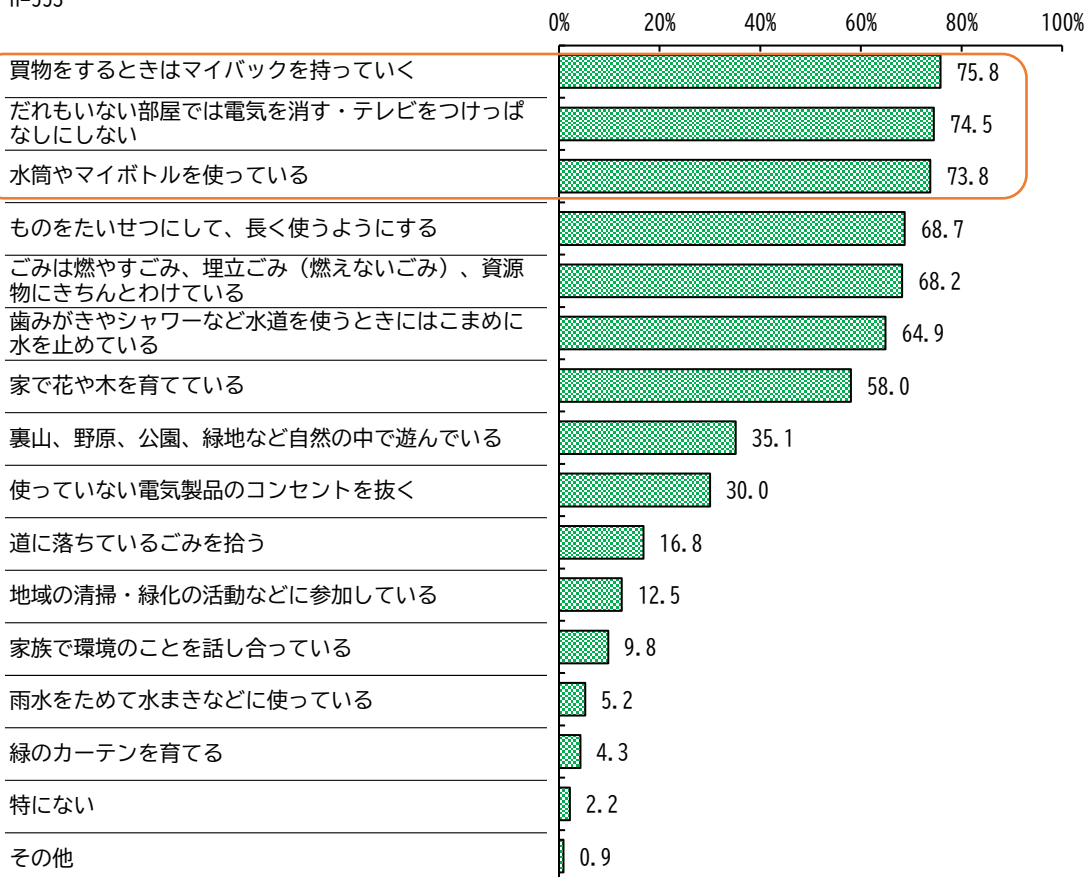
特に関心がある地球規模の環境問題は、「地球温暖化」が 58.6%と半数を超え、以下「大雨などの自然災害」が 23.7%、「動植物の減少や絶滅」が 21.2%となっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、どちらの調査でも「地球温暖化」（前回 53.6%、今回 58.6%）が最も高くなっている。前回調査で次に高いものでは、「動植物の減少や絶滅」で 21.6%だったが、今回調査では 21.2%で3位となっている。

6. 環境を良くするために、普段どんなことをしているか

問7 環境を良くするために、普段どんなことをしていますか。(〇はいくつでも)

n=553

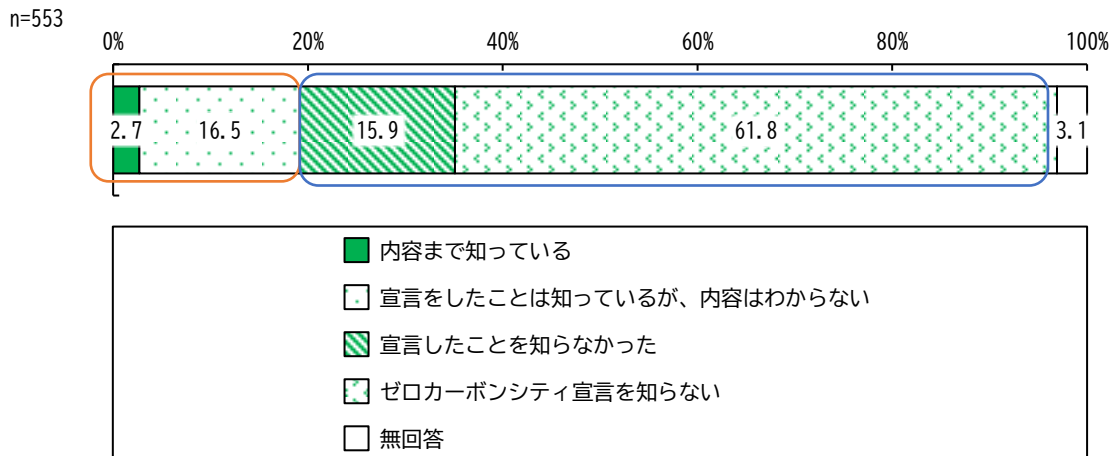


環境を良くするために普段していることでは、「買物をするときはマイバックを持っていく」が75.8%、「だれもない部屋では電気を消す・テレビをつけっぱなしにしない」が74.5%、「水筒やマイボトルを使っている」が73.8%と、この3つが70%以上となっている。

前回調査（令和元年度）と比較すると、前回調査では「ごみはボイ捨てしない」（75.8%）が最も高く（今回は同じ選択肢なし）、次いで「ものをたいせつにして、長く使うようにする」（60.1%）であったが、今回調査では68.7%で4位となっている。

7. 岡谷市がゼロカーボンシティ宣言をしていることを、知っているか

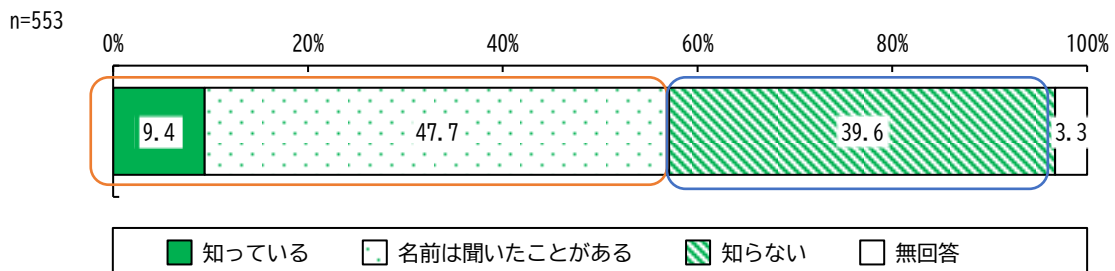
問8 岡谷市がゼロカーボンシティ宣言をしていることを、知っていますか。(○はひとつ)



岡谷市がゼロカーボンシティ宣言をしていることについては、「内容まで知っている」が2.7%、「宣言をしたことは知っているが、内容はわからない」が16.5%で、両者を合わせると19.2%となる。一方、「宣言したことを知らなかった」は15.9%、「ゼロカーボンシティ宣言を知らない」は61.8%となっている。

8. カーボンニュートラルとは、どんなことが知っているか

問9 カーボンニュートラルとは、どんなことが知っていますか。(○はひとつ)

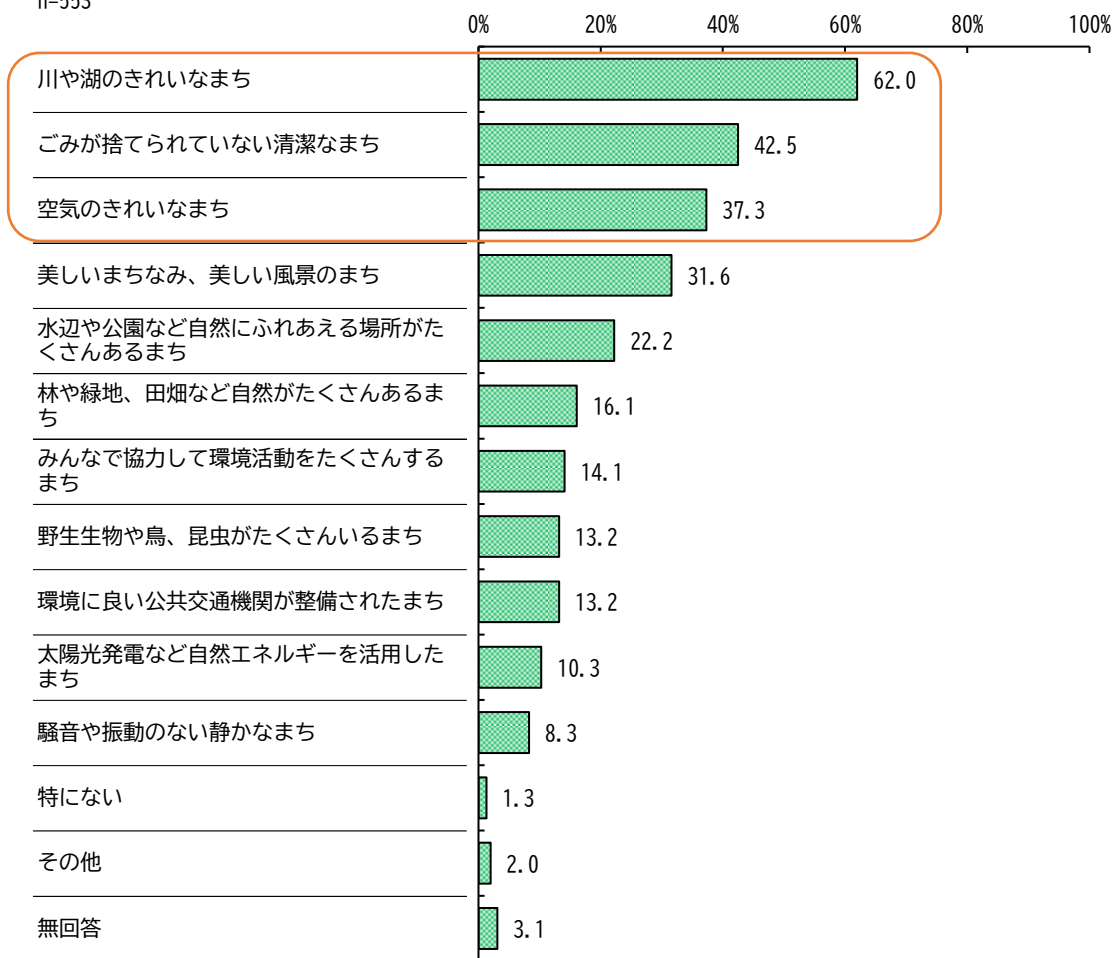


カーボンニュートラルについては、「知っている」は9.4%、「名前を聞いたことがある」は47.7%で、両者を合わせると57.1%と半数を超える。一方、「知らない」は39.6%となっている。

9. 将来岡谷市がどのような環境のまちになってほしいと思うか

問 10 将来岡谷市がどのような環境のまちになってほしいと思いますか。(○は2つまで)

n=553



将来岡谷市がどのような環境のまちになってほしいかでは、「川や湖のきれいなまち」が62.0%と半数を超え、以下「ごみが捨てられていない清潔なまち」が42.5%、「空気のきれいなまち」が37.3%となっている。

前回調査(令和元年度)と比較すると、どちらの調査でも「川や湖のきれいなまち」(前回46.1%、今回62.0%)が最も高いが、今回調査の割合は6割以上となっている。前回調査は以下「空気のきれいなまち」(31.2%)、「ごみが捨てられていない清潔なまち」(24.8%)、「美しいまちなみ、美しい風景のまち」(19.5%)、「水辺や公園など自然にふれあえる場所がたくさんあるまち」(17.9%)となっており、割合の差はあるが上位の項目に大きな変動はない。

